

第3章

介護予防・日常生活支援ニーズ調査

(要支援者調査結果)

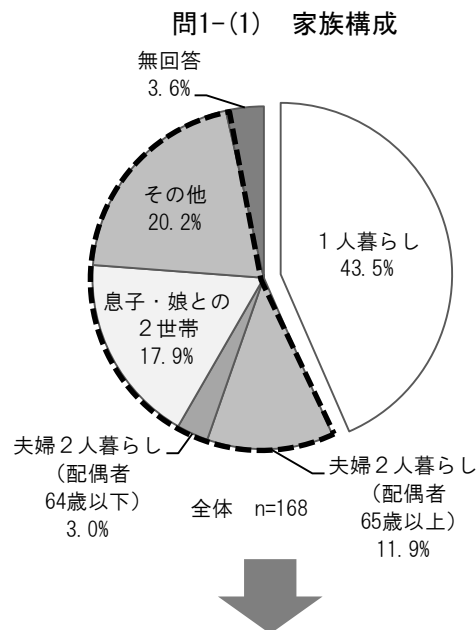
第3章 要支援者調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

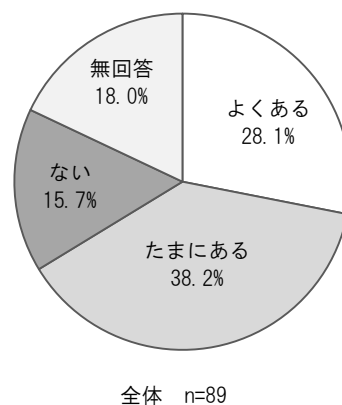
(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

○家族構成をみると、「1人暮らし」(43.5%)が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」(17.9%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(11.9%)となっています。

○日中に1人になることの有無は、「たまにある」(38.2%)が最も高く、「よくある」(28.1%)を合わせた6割以上が、日中に1人になることがあると回答しています。



問1-(1).① 日中、1人になることの有無



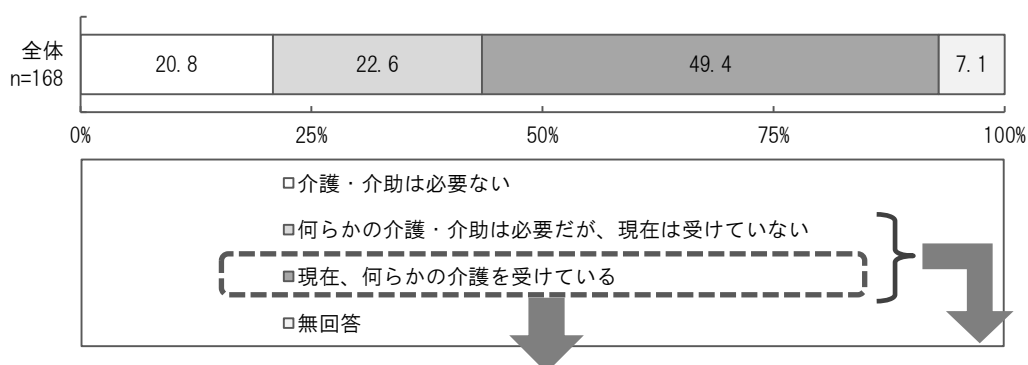
(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無

○普段の生活における介護・介助の状況をみると、「現在、何らかの介護を受けている」（49.4%）、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（22.6%）を合わせた72.0%が介護・介助が必要と回答しています。

○介護・介助をしてくれる人は、「介護サービスのヘルパー」（41.0%）が最も高く、次いで「娘」（24.1%）、「配偶者（夫・妻）」「息子」（各15.7%）の順となっています。

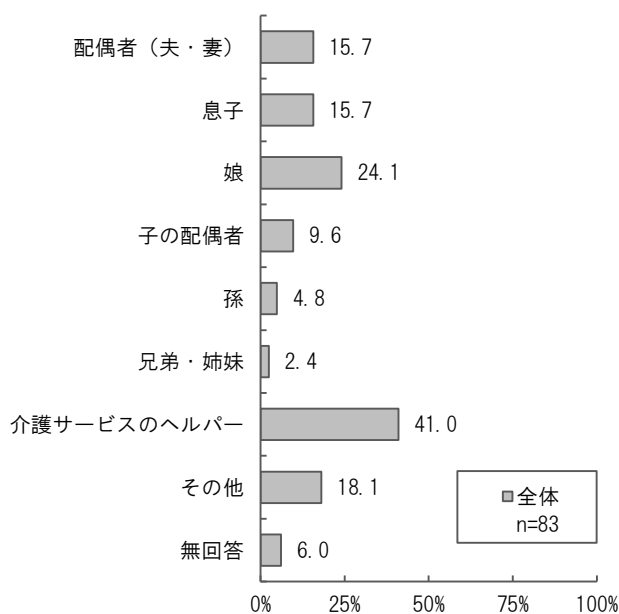
○介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」（28.9%）が最も高く、次いで「骨折・転倒」（17.4%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（16.5%）、「心臓病」（14.9%）となっています。

問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か

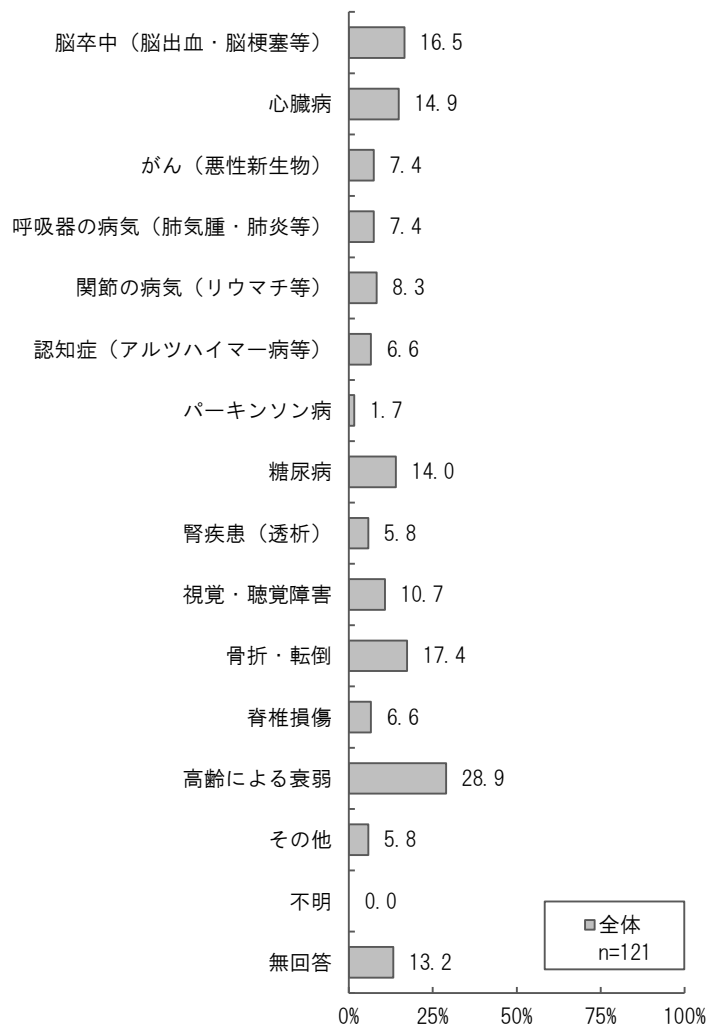


問1-(2).①へ

問1-(2).② 介護・介助をしてくれる人



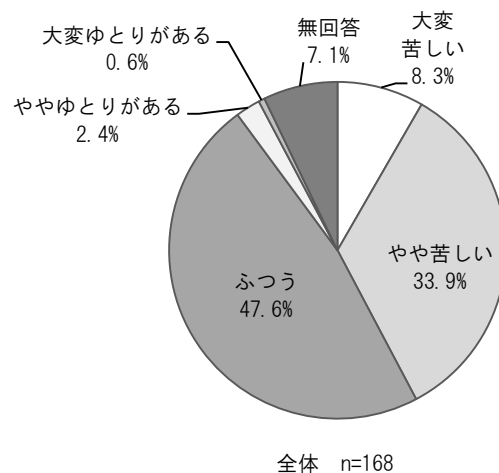
問1-(2).① 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済状況をみると、「ふつう」（47.6%）が最も高く、次いで「やや苦しい」（33.9%）、「大変苦しい」（8.3%）となっています。

問1-(3) 経済的にみた現在の暮らしの状況

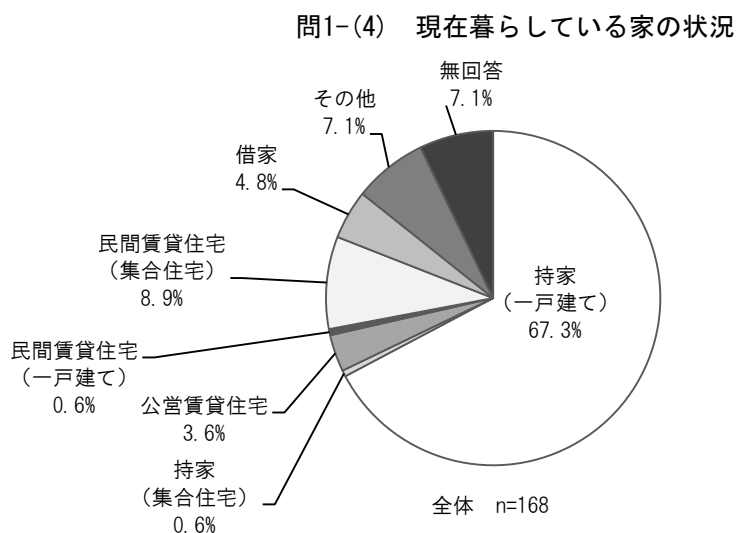


(4) 現在の居住環境

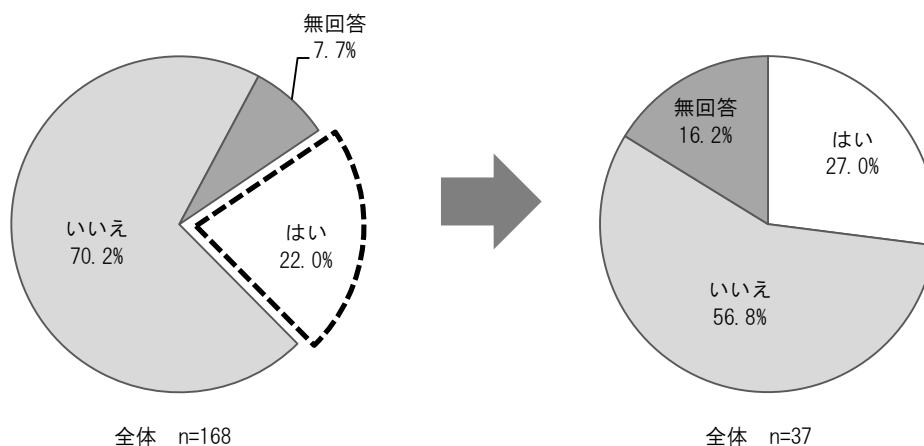
○現在暮らしている家の状況を見ると、「持家（一戸建て）」（67.3%）が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（8.9%）、「借家」（4.8%）、「公営賃貸住宅」（3.6%）となっています。

○主に生活する部屋が2階以上にある方は22.0%となっています。

○また、主に生活する部屋が2階以上にある方のエレベーター設置状況を見ると、56.8%の方が未設置であると回答しています。



問1-(5) 2階以上に生活する部屋があるか 図1-(5).① エレベーターが設置されている



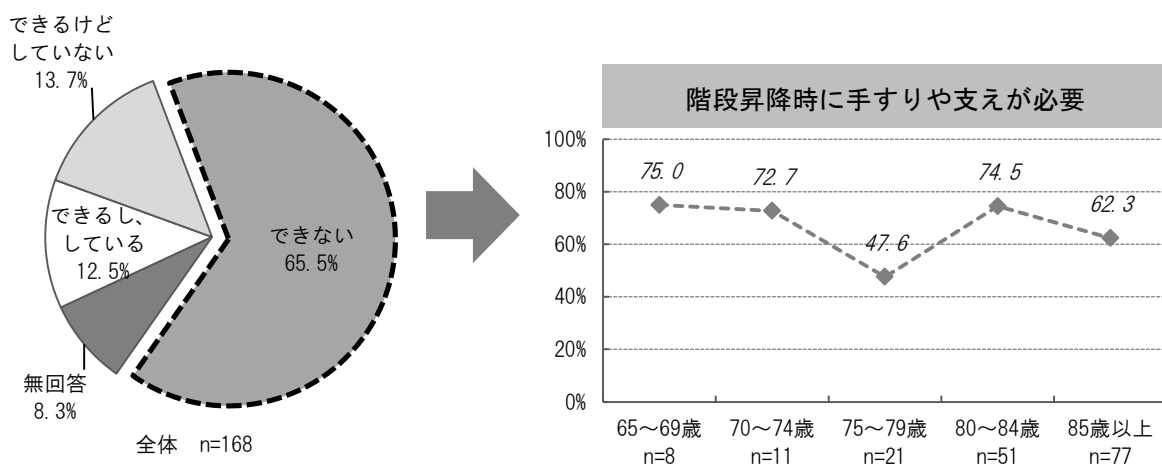
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

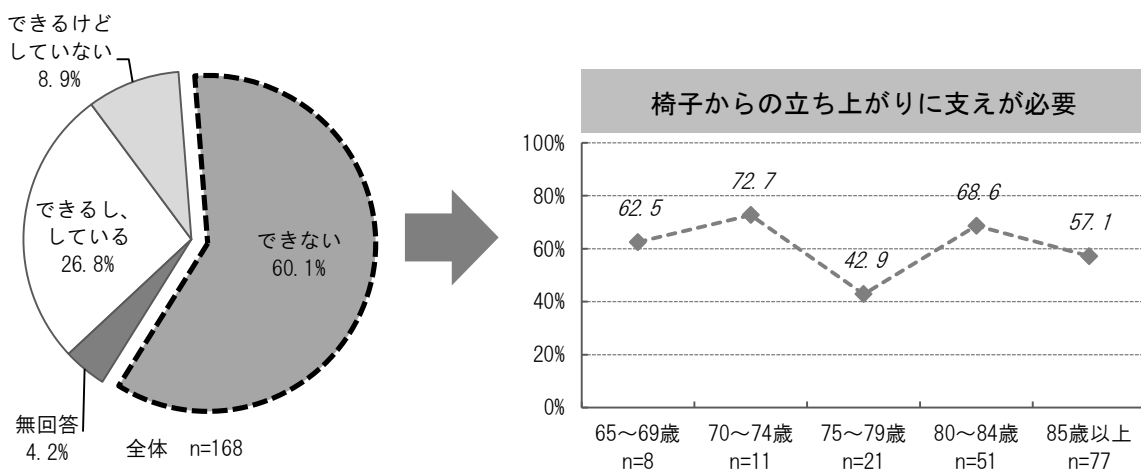
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない方は65.5%となり、年齢階級別にみると75～79歳を除いて6割を超えています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない方は60.1%となり、年齢階級別にみると75～79歳を除いて5割を超えています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか

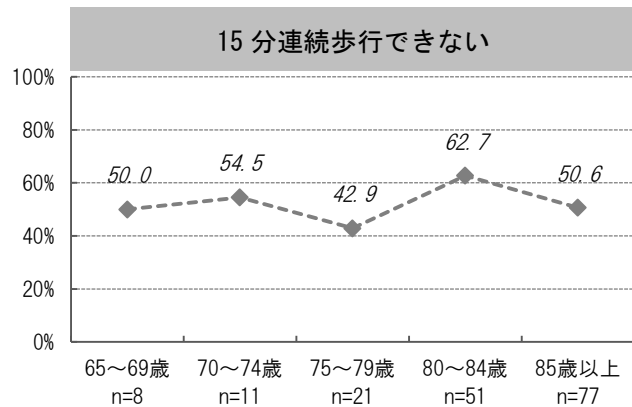
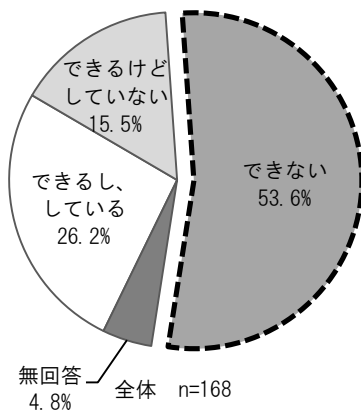


○15分位続けて歩くことができない方は53.6%となり、年齢階級別にみると75～79歳を除いて5割を超えています。

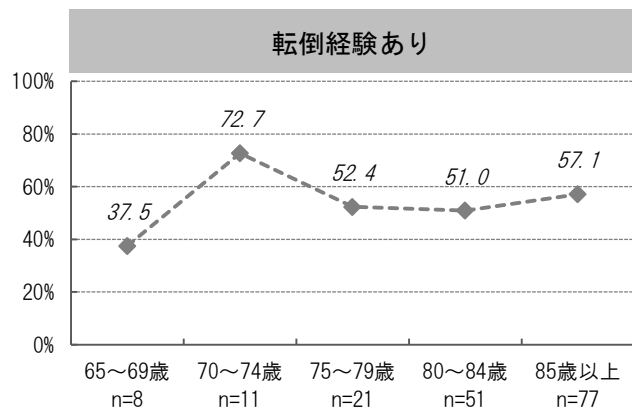
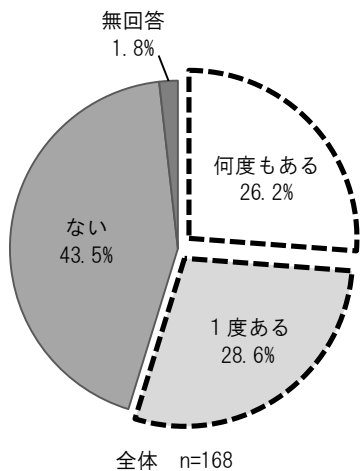
○過去1年間に転んだ経験がある方は、「1度ある」(28.6%)と「何度もある」(26.2%)を合わせた54.8%となり、年齢階級別にみると75～79歳が72.7%と最も高くなっています。

○転倒に対する不安がある方は、「とても不安である」(53.6%)と「やや不安である」(40.5%)を合わせた94.1%となり、年齢階級別にみると全ての階級で9割を超えています。

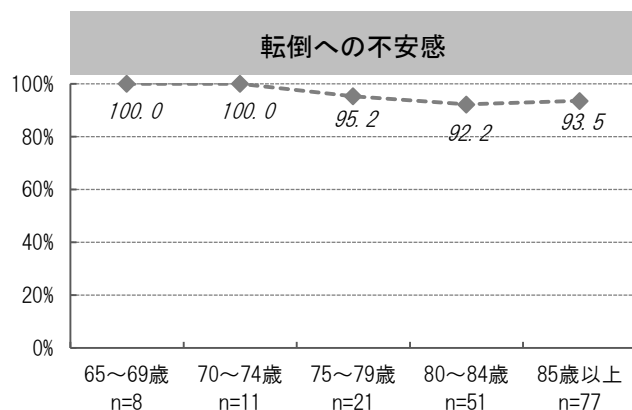
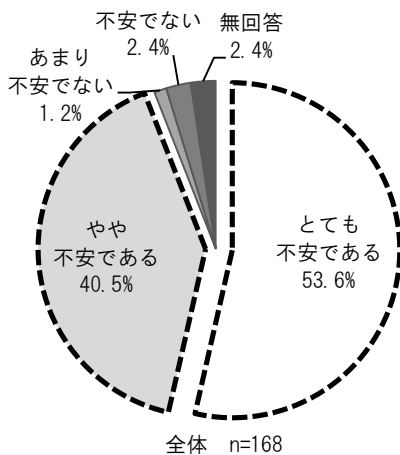
問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか



問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無

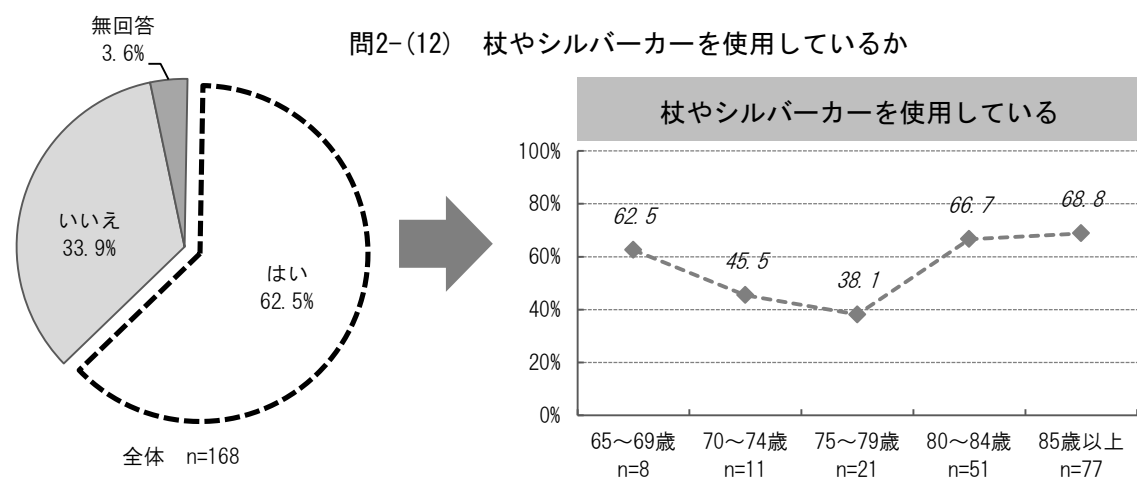
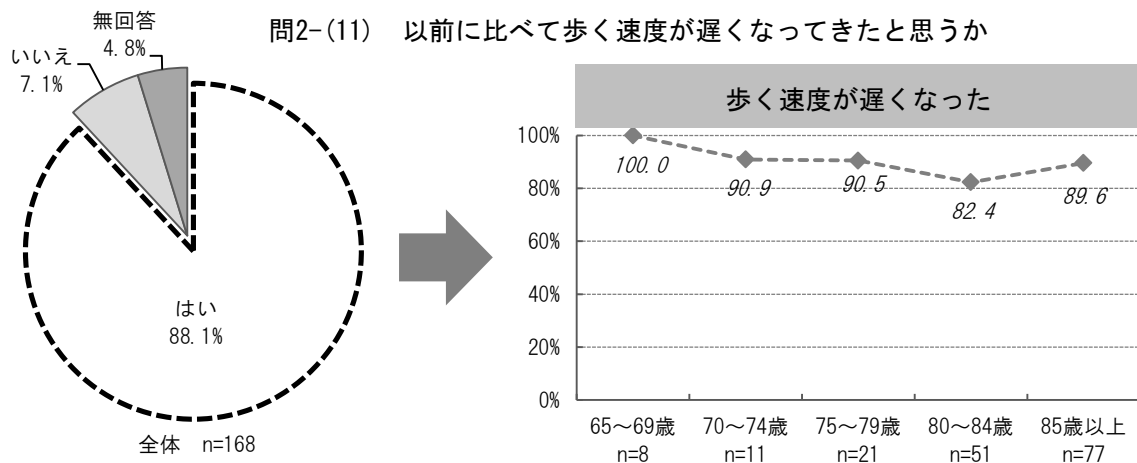


問2-(5) 転倒に対して不安であるか



○以前に比べて歩く速度が遅くなった方は88.1%となり、年齢階級別にみると65～79歳で高い割合となっています。

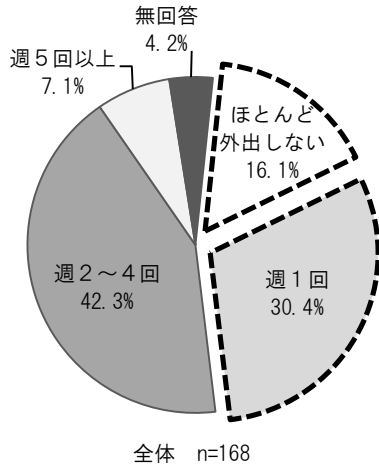
○杖やシルバーカーを使用している方は62.5%となり、年齢階級別にみると65～69歳と80歳以降で6割を超えています。



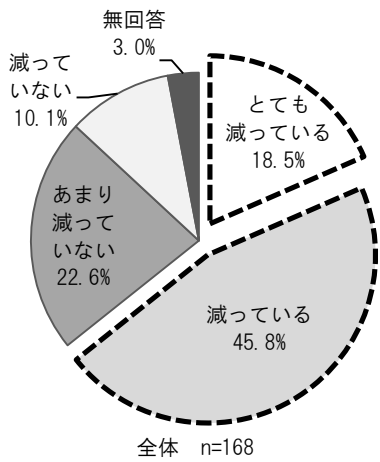
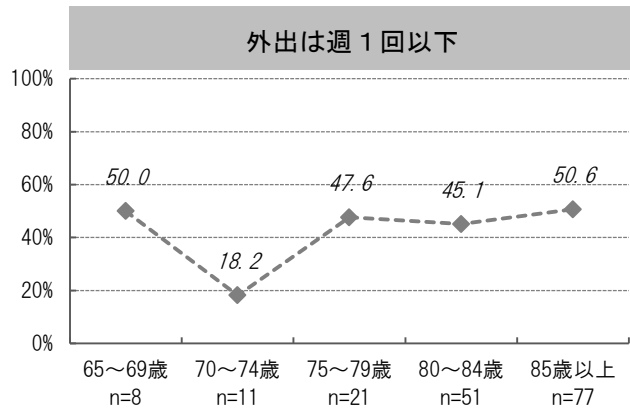
(2) 外出の状況

〇週に1回以上は外出しているかでは、「週1回」(30.4%)と「ほとんど外出しない」(16.1%)を合わせた46.5%の方が週1回以下と回答し、年齢階級別にみると70~74歳を除いて5割前後となっています。

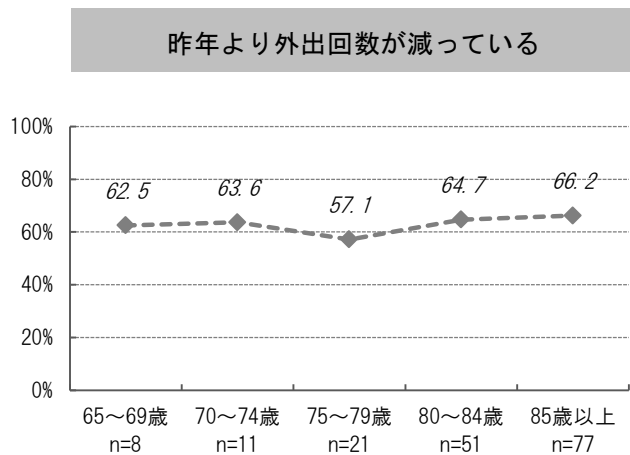
〇昨年と比べた外出の頻度は、「減っている」(45.8%)と「とても減っている」(18.5%)を合わせた64.3%となり、年齢階級別にみると70~74歳を除いて6割を超えています。



問2-(6) 週に1回以上は外出しているか



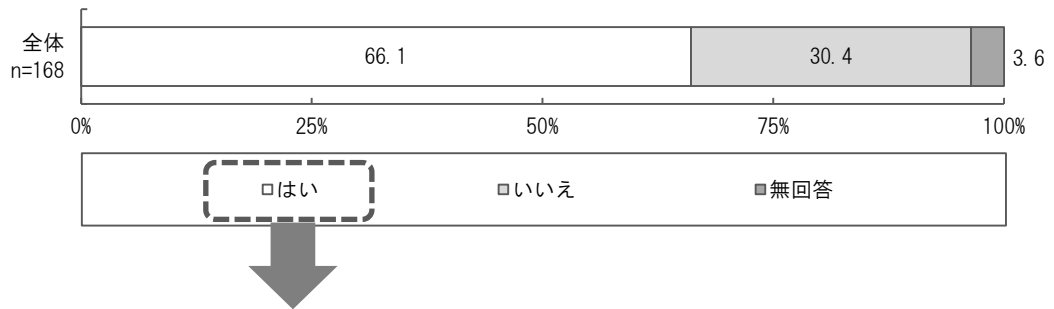
問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



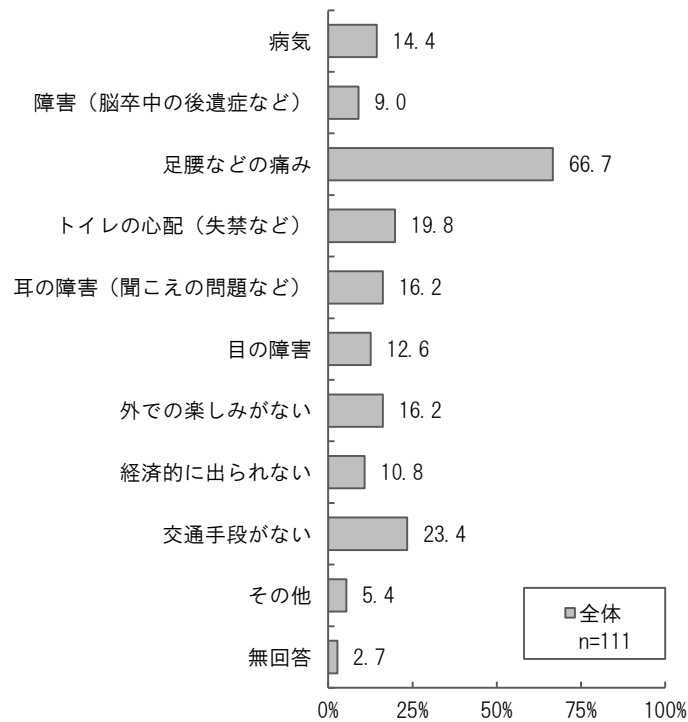
○外出を控えている方は66.1%となっています。

○外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」（66.7%）が最も高く、次いで「交通手段がない」（23.4%）、「トイレの心配（失禁など）」（19.8%）、「耳の障害（聞こえの問題など）」「外での楽しみがない」（各16.2%）となっています。

問2-(8) 外出を控えているか

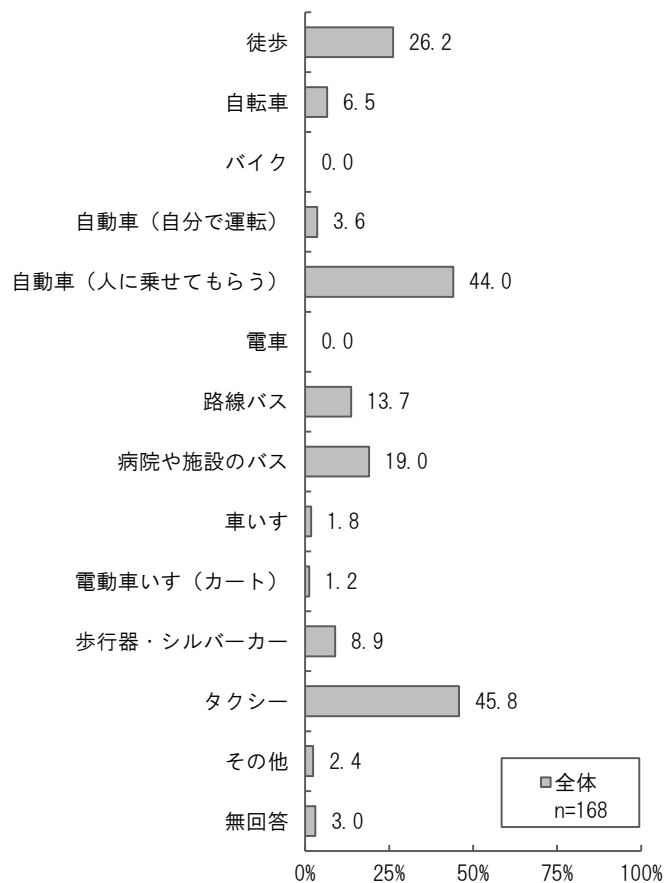


問2-(8).① 外出を控えている理由



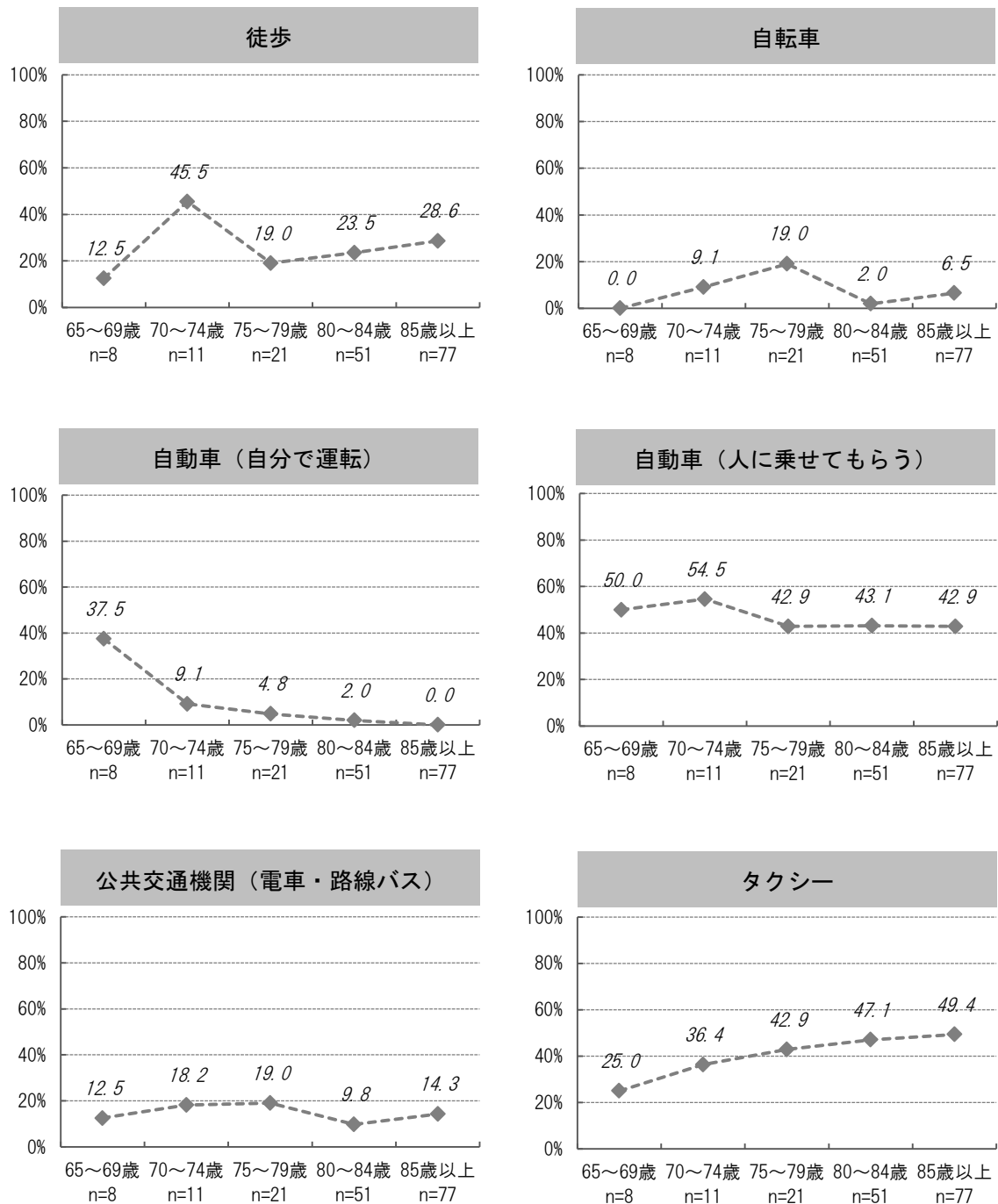
○外出する際の移動手段は、「タクシー」(45.8%) が最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」(44.0%)、「徒歩」(26.2%)、「病院や施設のバス」(19.0%)、「路線バス」(13.7%)、「歩行器・シルバーカー」(8.9%) となっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段



- 外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「自動車（自分で運転）」は70歳以降で利用割合が1割を下回り、低くなっています。
- 「タクシー」は、加齢とともに利用割合が高くなっています。
- 「徒歩」は、70～74歳が45.5%で最も高くなっています。
- 「公共交通機関（電車・路線バス）」は、80～84歳で利用割合が1割を下回り、低くなっています。

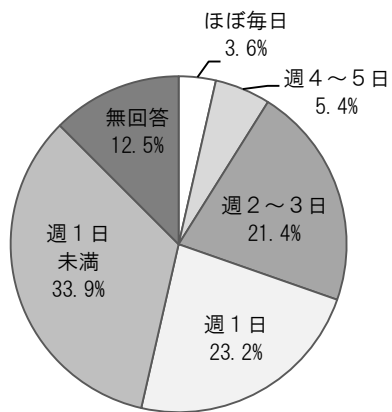
問2-(9) 年齢階級別移動手段



○買い物で外出する頻度では、「週1日未満」(33.9%)が最も高く、次いで「週1日」(23.2%)、「週2～3日」(21.4%)、「週4～5日」(5.4%)となっています。

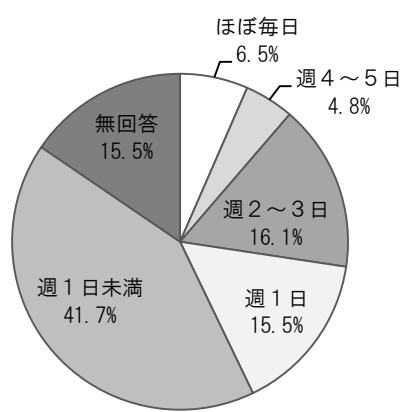
○散歩で外出する頻度では、「週1日未満」(41.7%)が最も高く、次いで「週2～3日」(16.1%)、「週1日」(15.5%)、「ほぼ毎日」(6.5%)となっています。

問2-(10).① 買い物で外出する頻度



全体 n=168

問2-(10).② 散歩で外出する頻度



全体 n=168

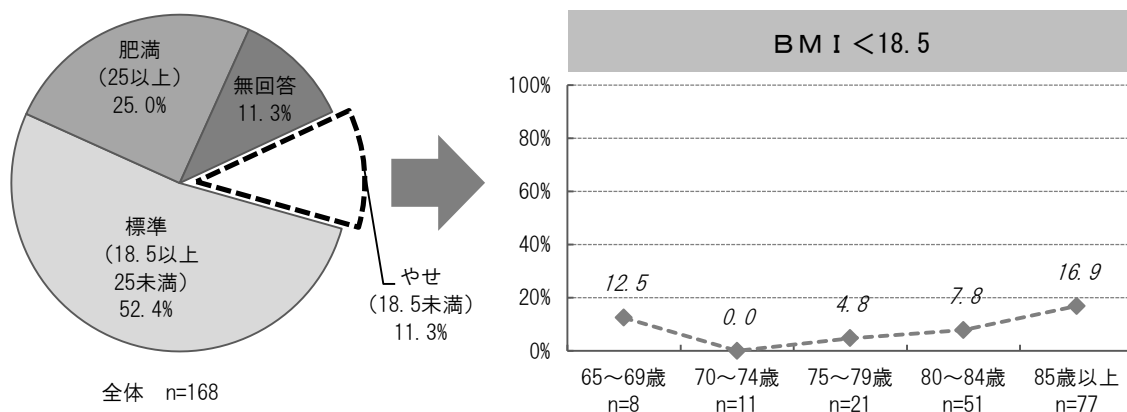
3 食べることについて

(1) 現在の体重（BMI）状況

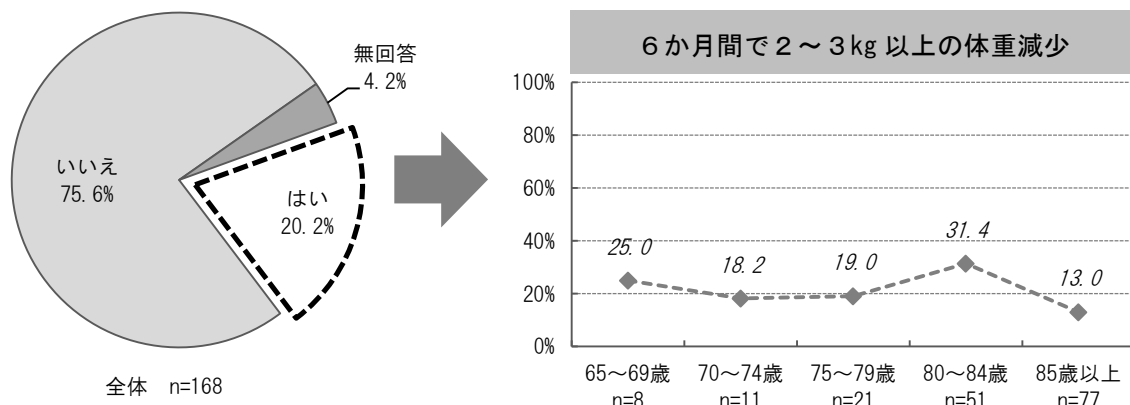
○高齢者の肥満状況をBMI指数で見ると、「やせ（18.5未満）」の方は11.3%となり、年齢階級別にみると75歳以降は加齢とともにやや高くなっています。

○6か月間で2～3kg以上の体重減少があった方は20.2%となり、年齢階級別にみると80～84歳でやや高くなっています。

問3-(1) BMI



問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があるか



(2) 歯・口腔の状況

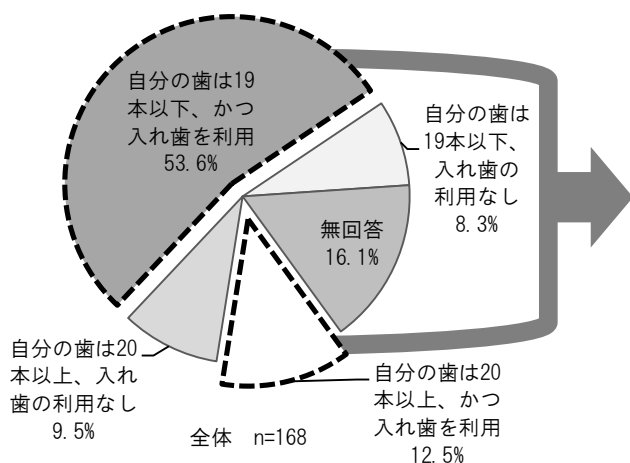
○歯の数と入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(53.6%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(12.5%)を合わせた66.1%の方が入れ歯を利用しています。

○入れ歯利用者のうち、毎日入れ歯の手入れをしている方は93.7%となっています。

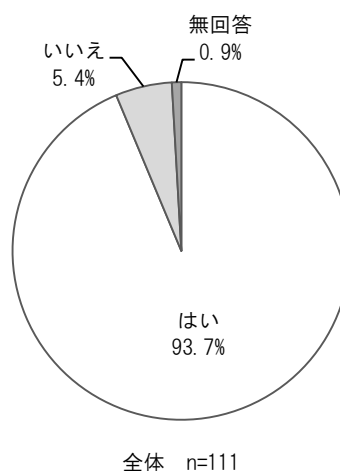
○噛み合わせが良い方は59.5%となっています。

○歯磨きを毎日している方は91.1%となっています。

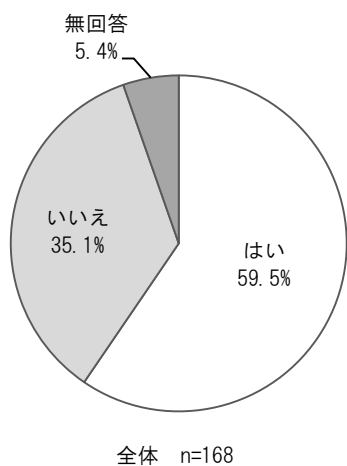
問3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況



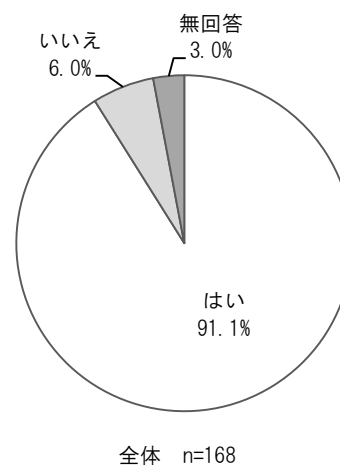
問3-(3).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



問3-(3).② 噛み合わせは良いか



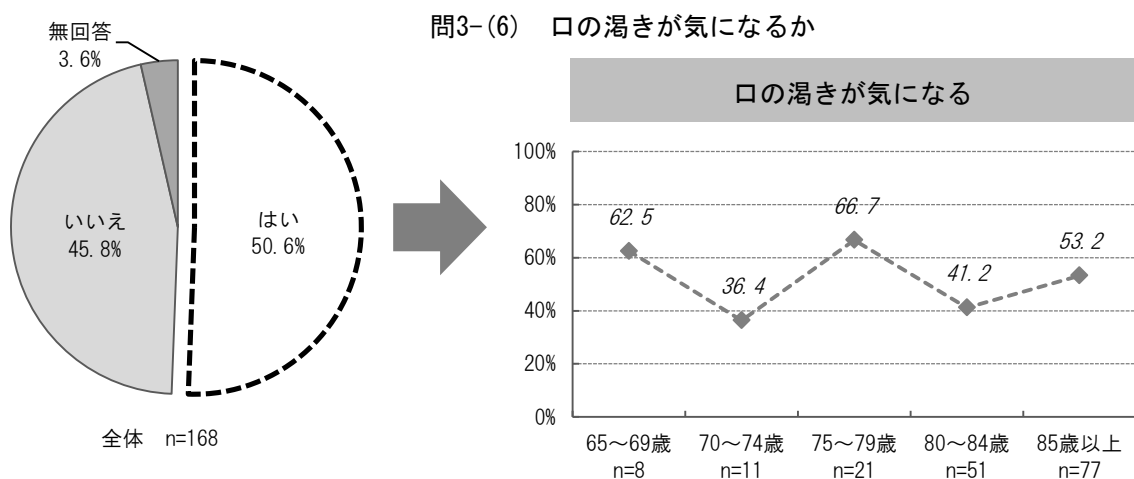
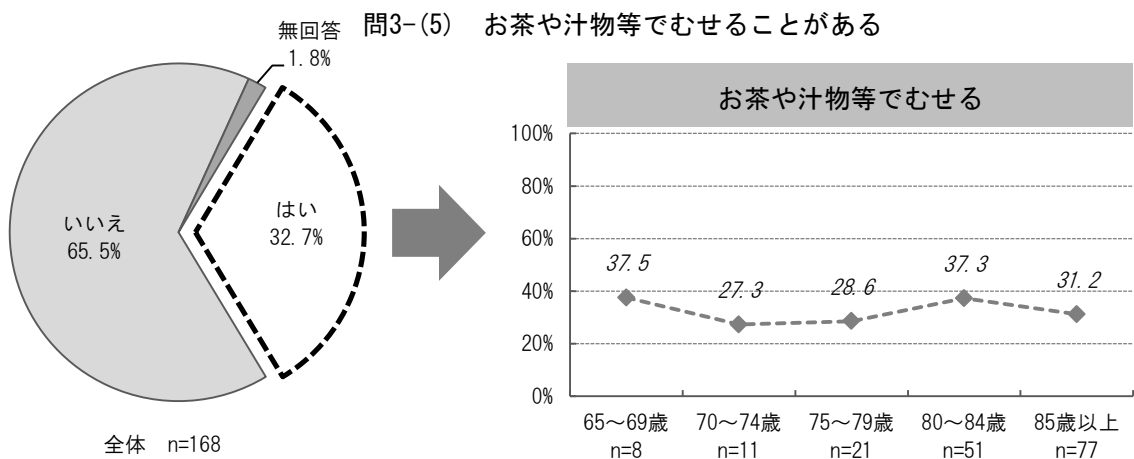
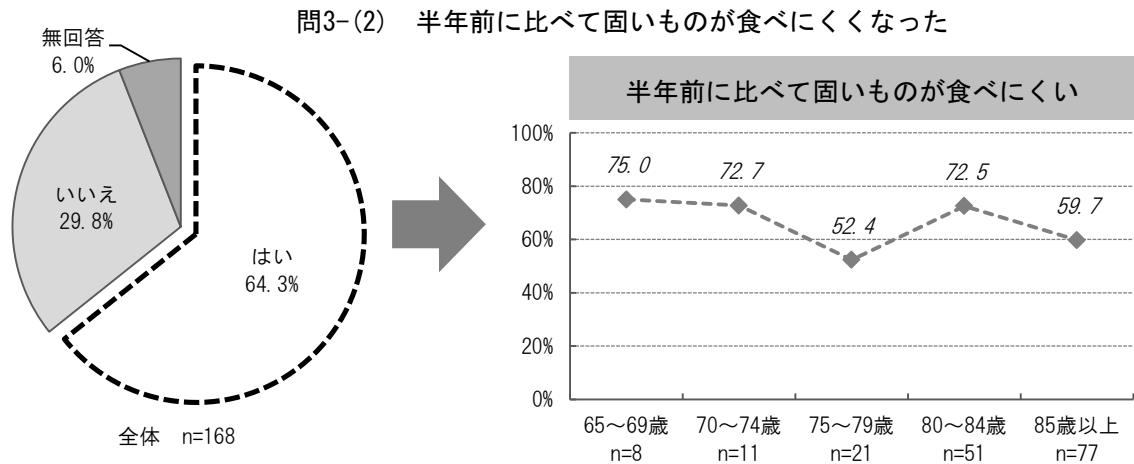
問3-(7) 歯磨きを毎日しているか



○半年前に比べて固いものが食べにくい方は64.3%となり、年齢階級別にみると全ての階級で5割を超えています。

○お茶や汁物等でむせることがある方は32.7%となり、年齢階級別にみると一定の割合で横ばいとなっています。

○口の渇きが気になる方は50.6%で、年齢階級別にみると75～79歳で66.7%と最も高くなっています。

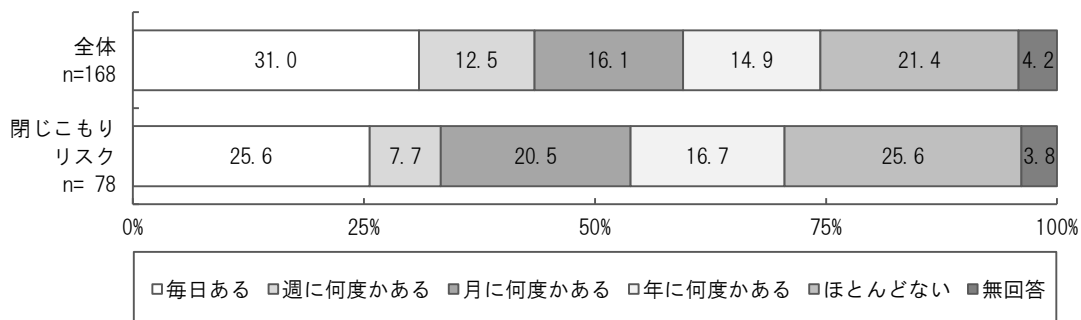


(3) 食事の状況

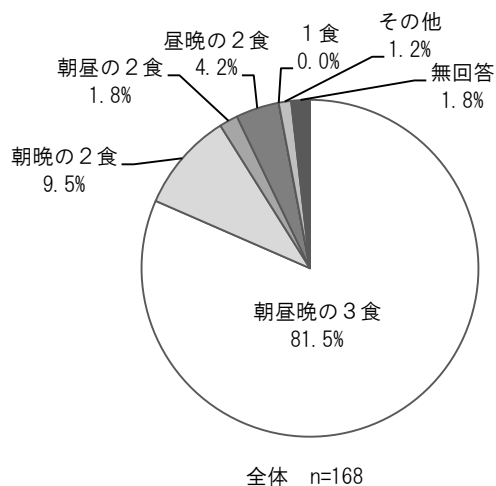
○どなたかと食事をとにもする機会をみると、全体では「毎日ある」(31.0%)、閉じこもりリスク者では「毎日ある」「ほとんどない」(各25.6%)で最も高くなっています。

○1日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」(81.5%)が最も高くなっています。

問3-(4) どなたかと食事をとにもする機会 (×「閉じこもりリスク者」)



問3-(9) 1日の食事の回数



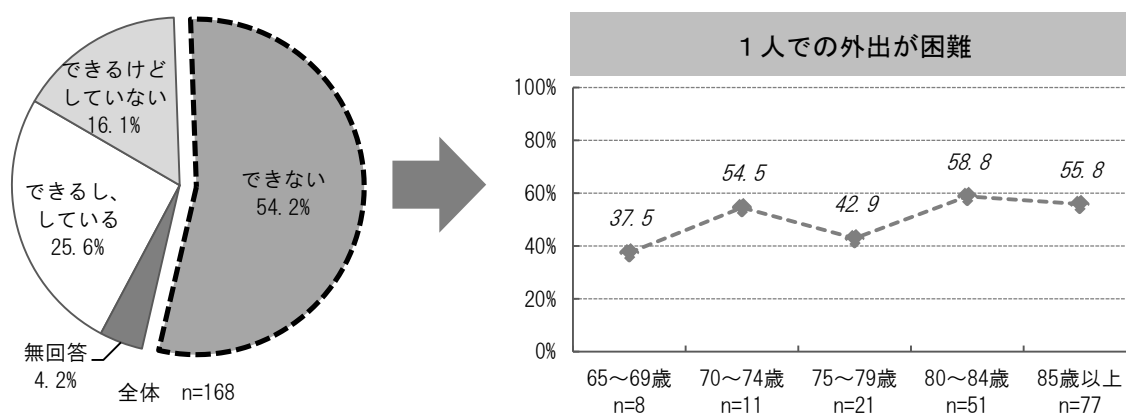
4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的自立度）の状況

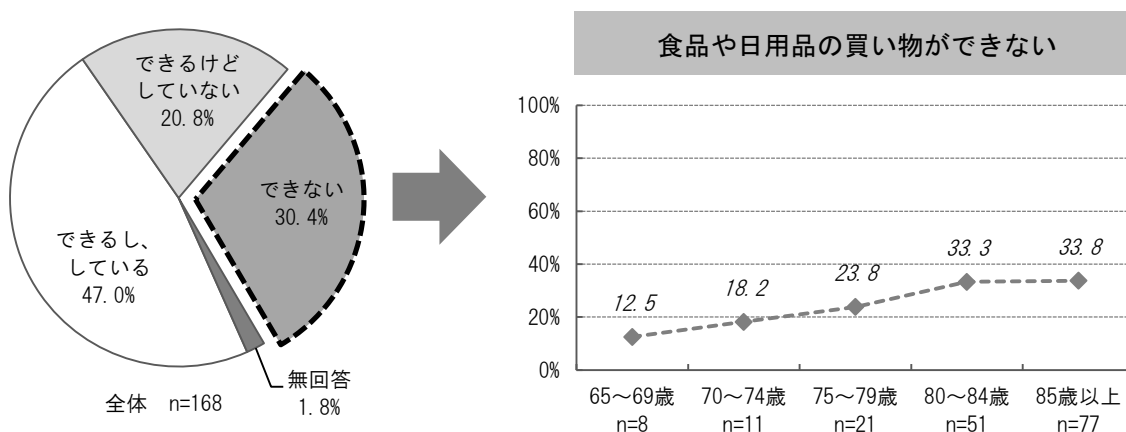
○バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」方は54.2%となり、年齢階級別にみると70～74歳と80歳以降で5割を超えています。

○自分で食品・日用品の買い物をしているかでは、「できない」方は30.4%となり、年齢階級別にみると加齢とともに高くなっています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

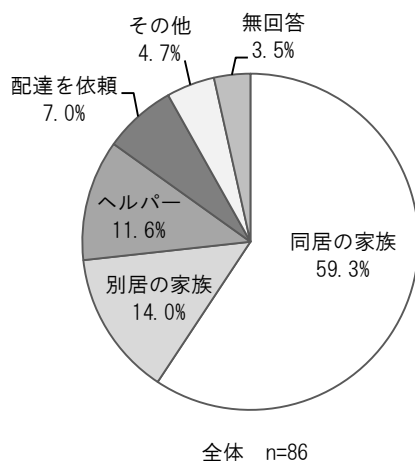


問4-(3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

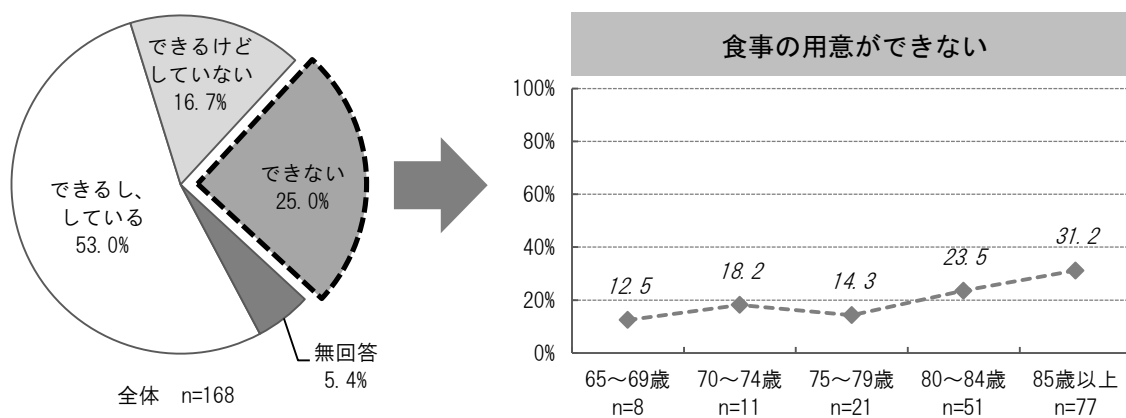


- 食品・日用品の買い物をする人は、「同居の家族」(59.3%) が最も高くなっています。
- 自分で食事の用意ができない方は25.0%となり、年齢階級別にみると80歳以降で加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(3). ① 食品・日用品の買い物をする人
 【問4-(3)において「2. できるだけしていない」「3. できない」に回答の方】



問4-(4) 自分で食事の用意をしているか

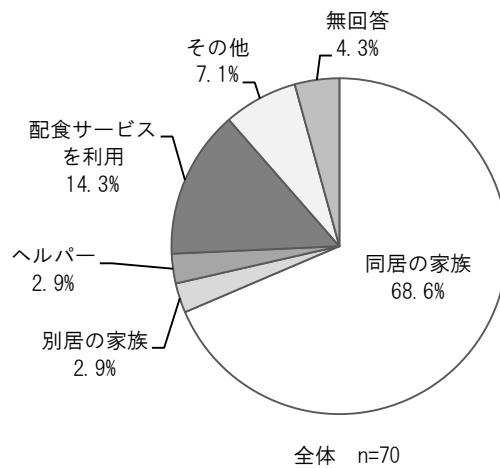


○食事の用意をする人は「同居の家族」(68.6%)が最も高く、次いで「配食サービスを利用」(14.3%)となっています。

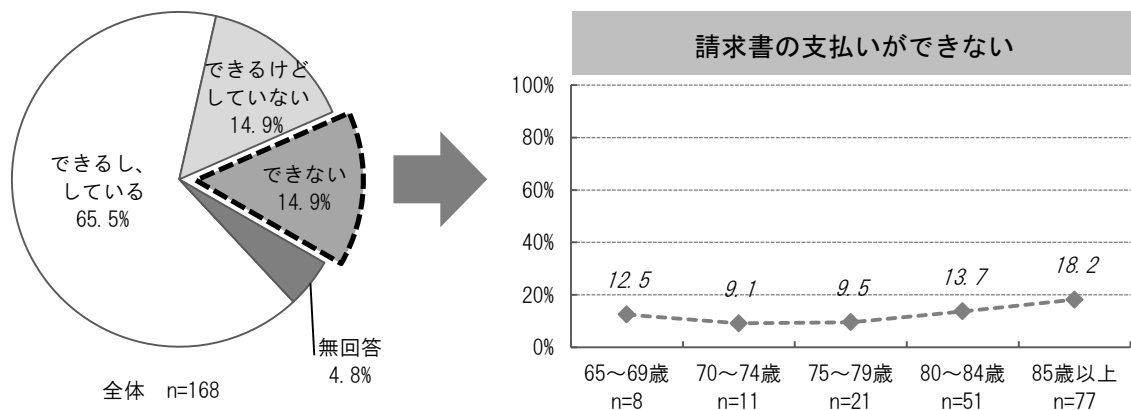
○自分で請求書の支払いができない方は14.9%となり、年齢階級別にみると75歳以降で加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(4). ① 食事の用意をする人

【問4-(4)において「2. できるだけしていない」「3. できない」に回答の方】

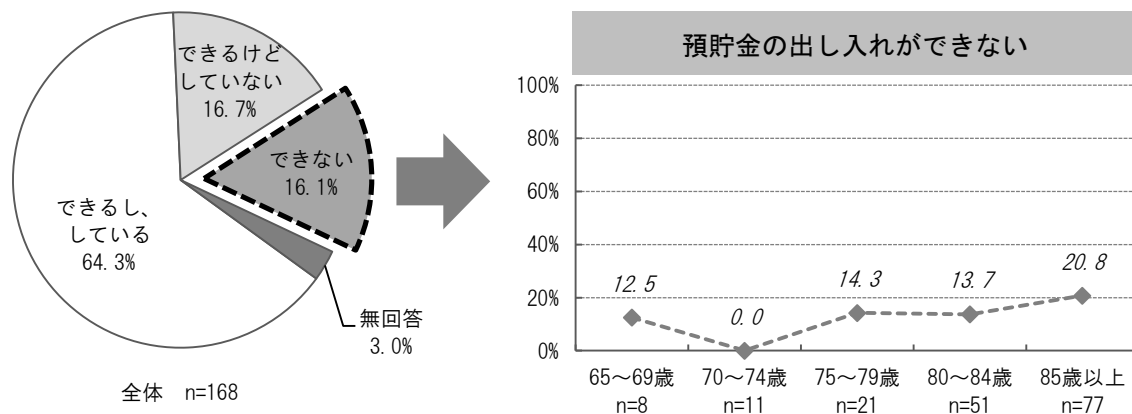


問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



○自分で預貯金の出し入れができない方は16.1%となり、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

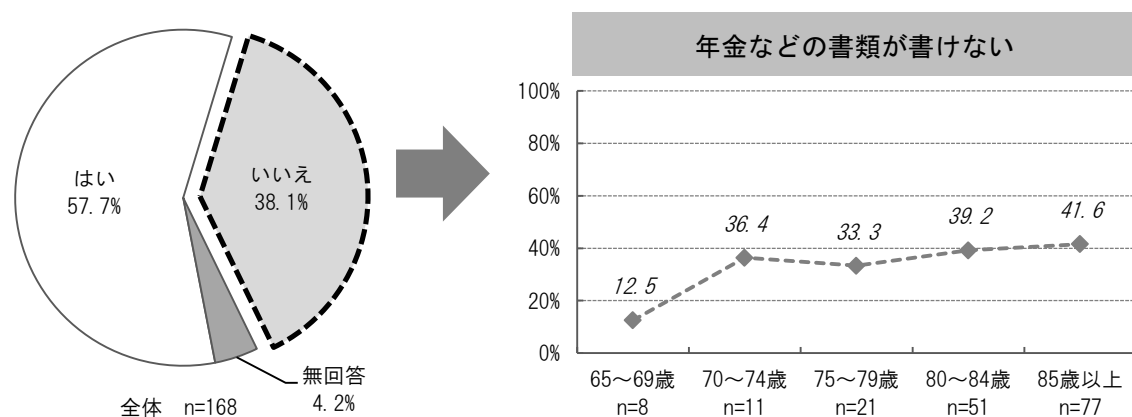
問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けない方は38.1%となり、年齢階級別にみると85歳以上で4割を超えています。

問4-(9) 年金などの書類が書けるか

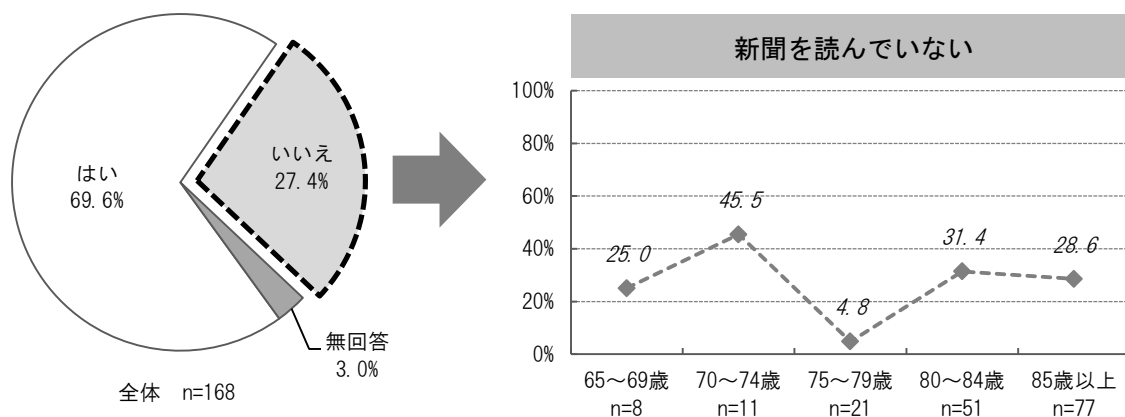


○新聞を読んでいない方は27.4%となり、年齢階級別にみると70～74歳が45.5%と最も高くなっています。

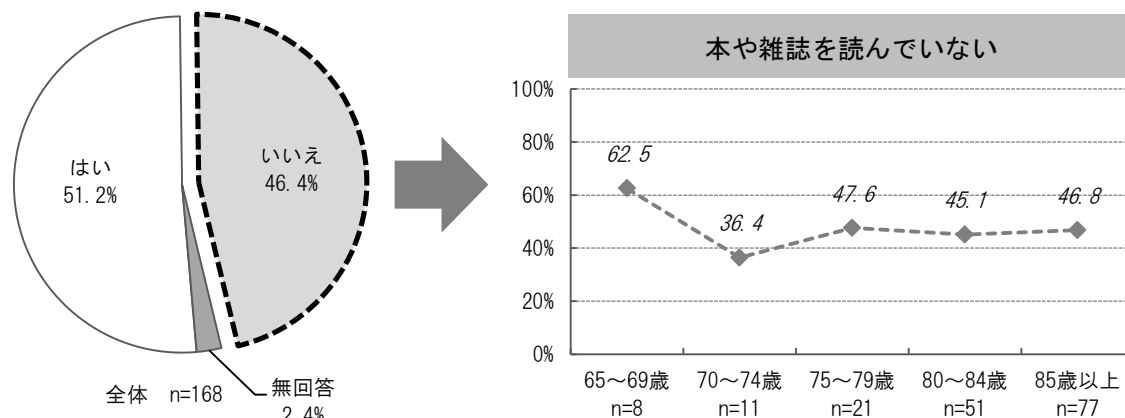
○本や雑誌を読んでいない方は46.4%となり、年齢階級別にみると65～69歳で6割を超えています。

○健康についての記事や番組に関心がない方は14.9%となり、年齢階級別にみると70～74歳で27.3%と高くなり、その後10%前後で推移します。

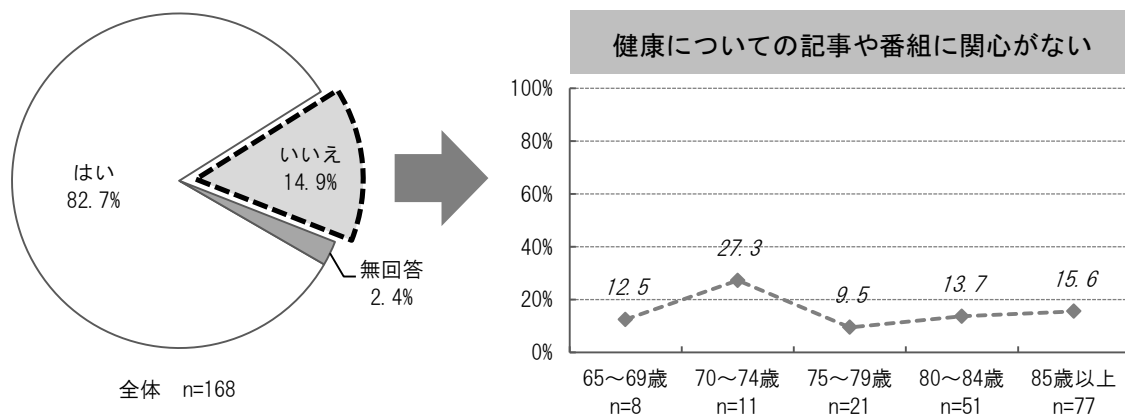
問4-(10) 新聞を読んでいるか



問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか



問4-(12) 健康についての記事や番組に関心がある



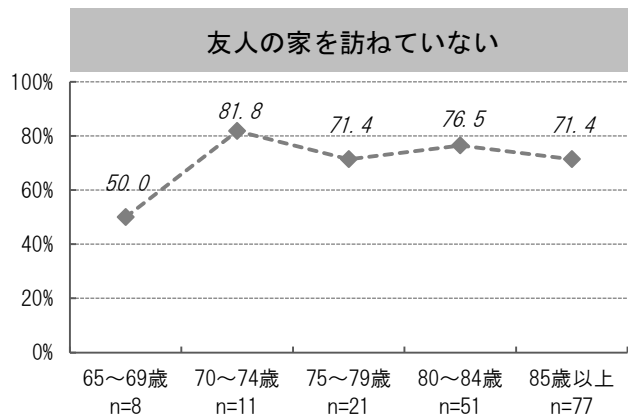
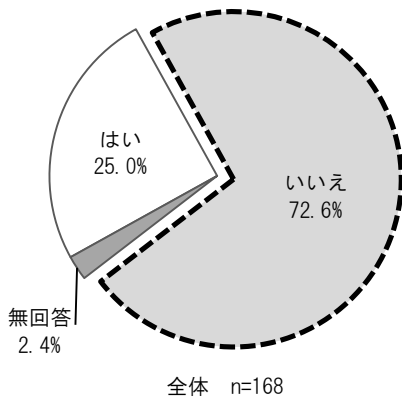
(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねていない方は72.6%となり、年齢階級別にみると65～69歳を除く全ての階級で7割を超えています。

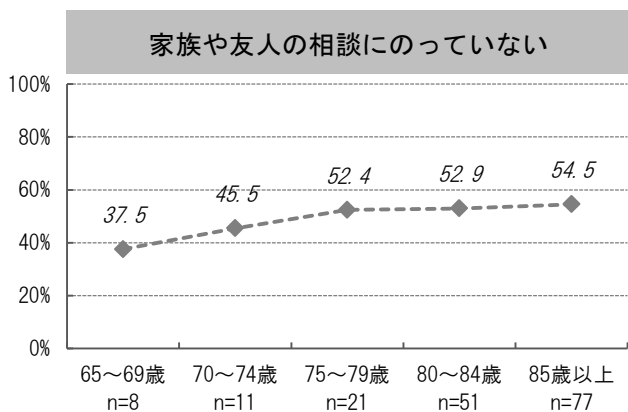
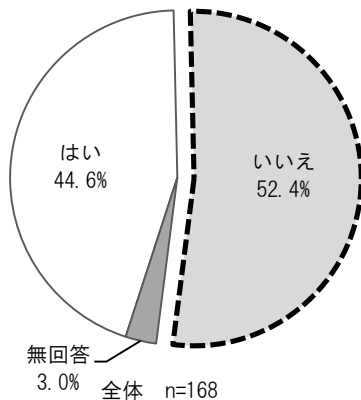
○家族や友人の相談にのっていない方は52.4%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○病人を見舞うことができない方は50.6%となり、年齢階級別にみると65～69歳を除いた階級で5割前後となっています。

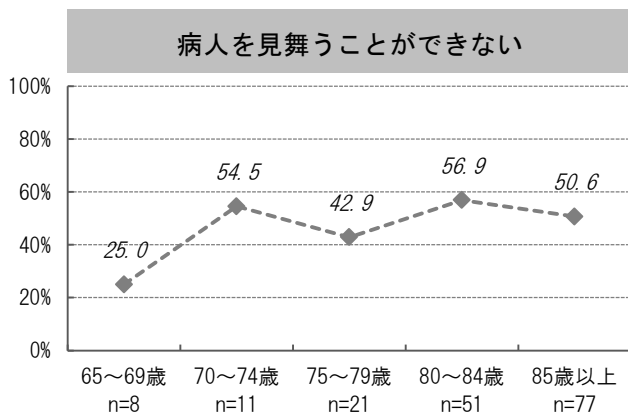
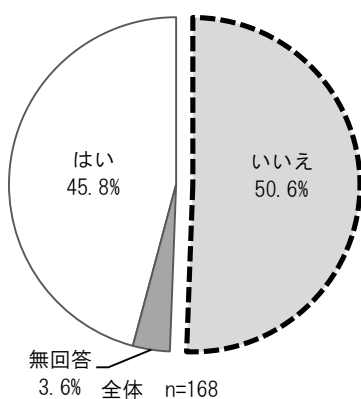
問4-(13) 友人の家を訪ねているか



問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか

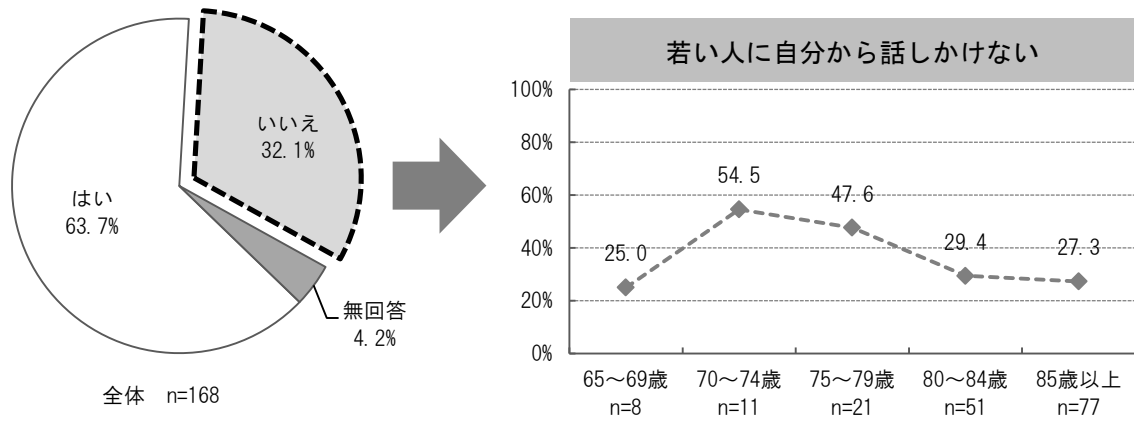


問4-(15) 病人を見舞うことができるか



○若い人に自分から話しかけない方は32.1%となり、年齢階級別にみると70～74歳が54.5%と最も高くなっています。

問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか

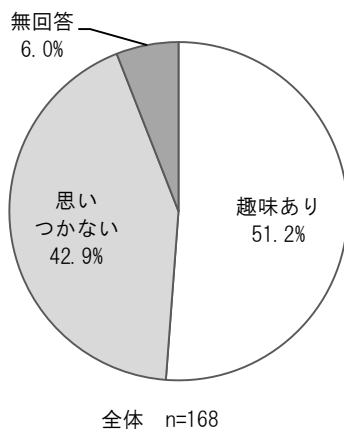


(4) こころの健康状態

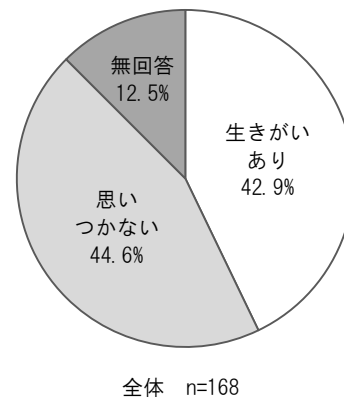
○趣味がある方は51.2%となっています。

○生きがいがある方は42.9%となっています。

問4-(17) 趣味はあるか



問4-(18) 生きがいはあるか



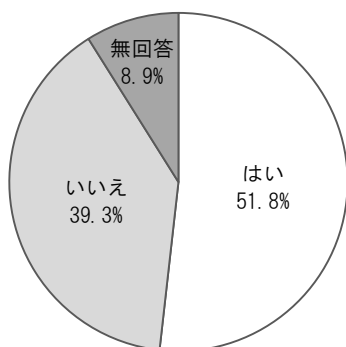
○この1か月間、気分が沈んだりすることがある方は51.8%となっています。

○この1か月間、物事に対して心から楽しめない方は44.6%となっています。

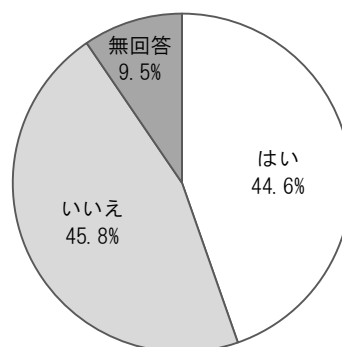
○現在の主観的幸福感を点数でみると、「5点」(28.6%)が最も高く、次いで「7点」(10.7%)、「8点」(10.1%)となっています。

問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする

問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない

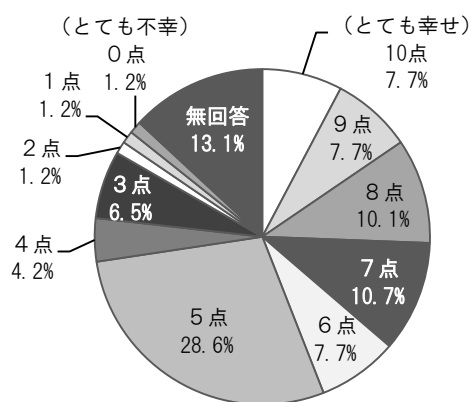


全体 n=168



全体 n=168

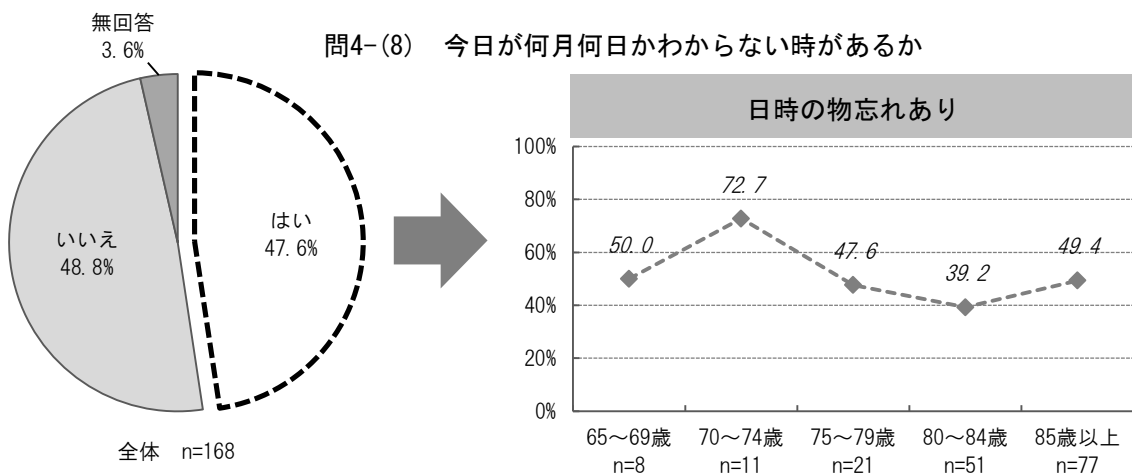
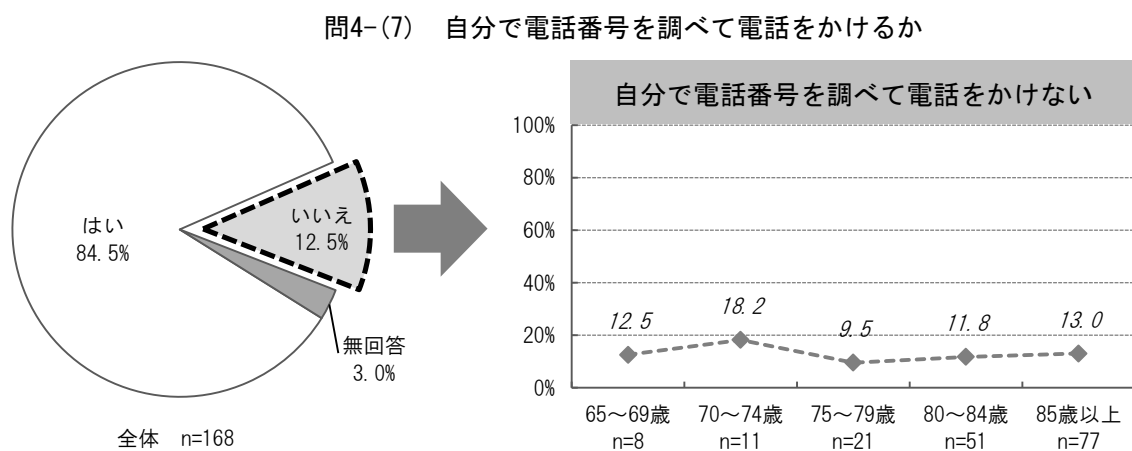
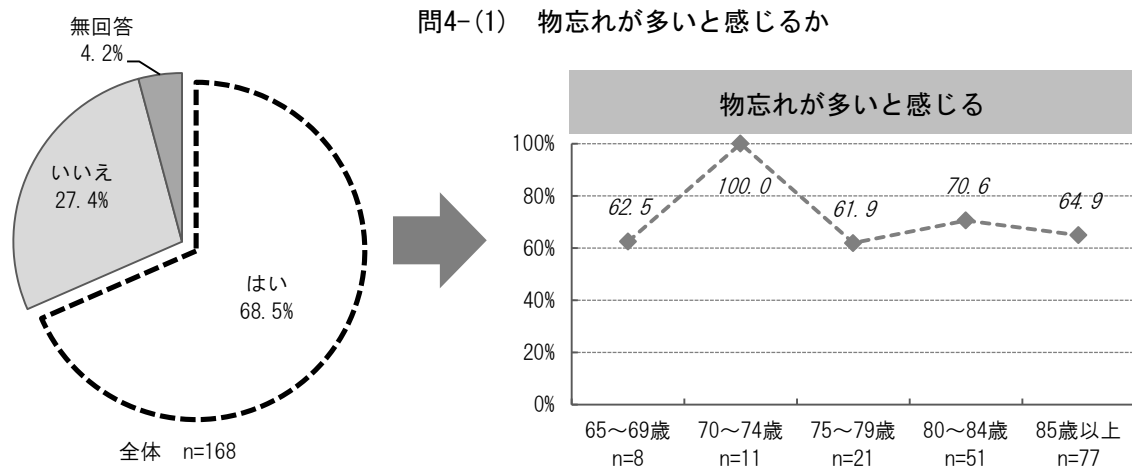
問7-(2) 現在の主観的幸福感



全体 n=168

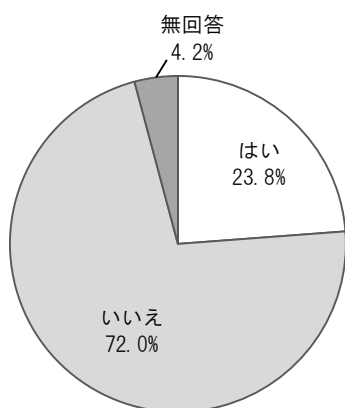
(5) 物忘れの状況

- 物忘れが多いと感じる方は68.5%で、年齢階級別にみると全ての階級で6割を超えています。
- 自分で電話番号を調べて電話をかけない方は12.5%で、年齢階級別にみると70~74歳が18.2%と最も高くなっています。
- 今日が何月何日かわからない時がある方は47.6%で、年齢階級別にみると70~74歳が72.7%と最も高くなっています。



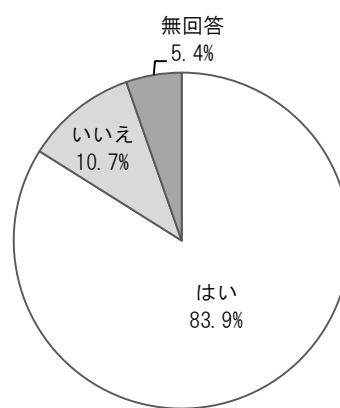
- 周囲から物忘れを指摘される方は、23.8%となっています。
- 5分前に自分が何をしていたか思い出せない方は、10.7%となっています。
- 自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状があると回答した方は14.3%となっています。
- 認知症に関する相談窓口について23.2%の方が知っていると回答していますが、「知らない(いいえ)」は7割に及んでいます。

問4-(19) 周囲から物忘れを指摘される



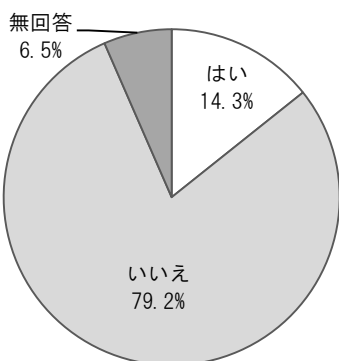
全体 n=168

問4-(20) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



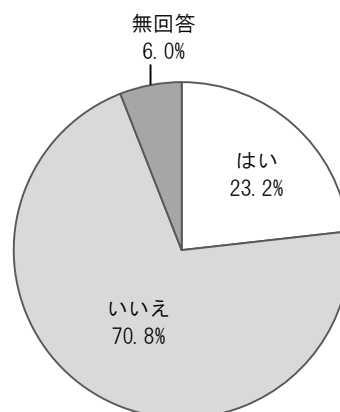
全体 n=168

問4-(21) 認知症の症状がある、または家族が認知症の症状がある



全体 n=168

問4-(22) 認知症に関する相談窓口を知っているか

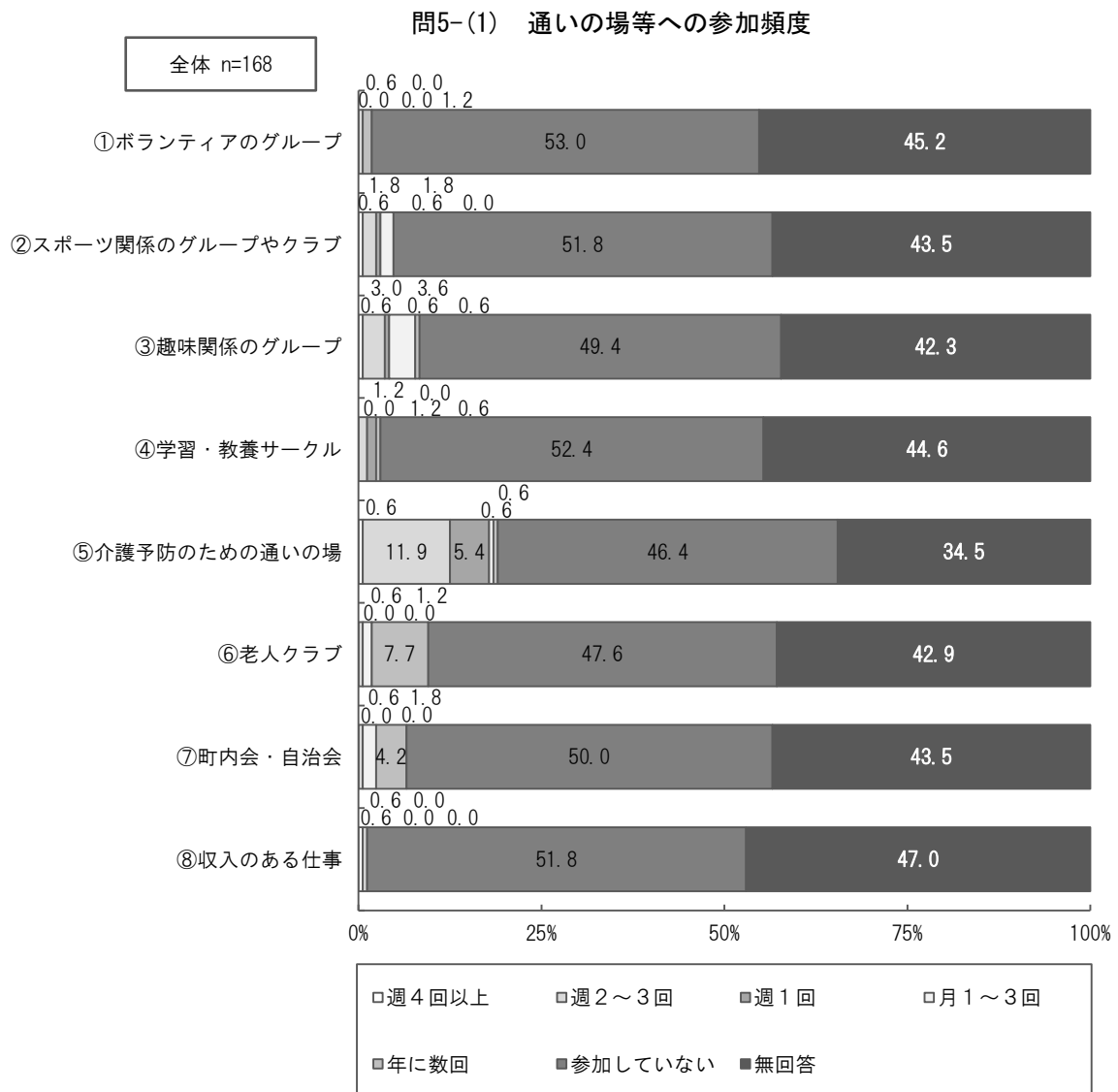


全体 n=168

5 地域での活動について

(1) グループ活動等の状況

○通いの場（グループ活動）等への参加頻度をみると、週に1回以上の就労または通いの場等に参加している方は「⑤介護予防のための通いの場」が17.9%、「③趣味関係のグループ」が4.2%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が3.0%となっています。



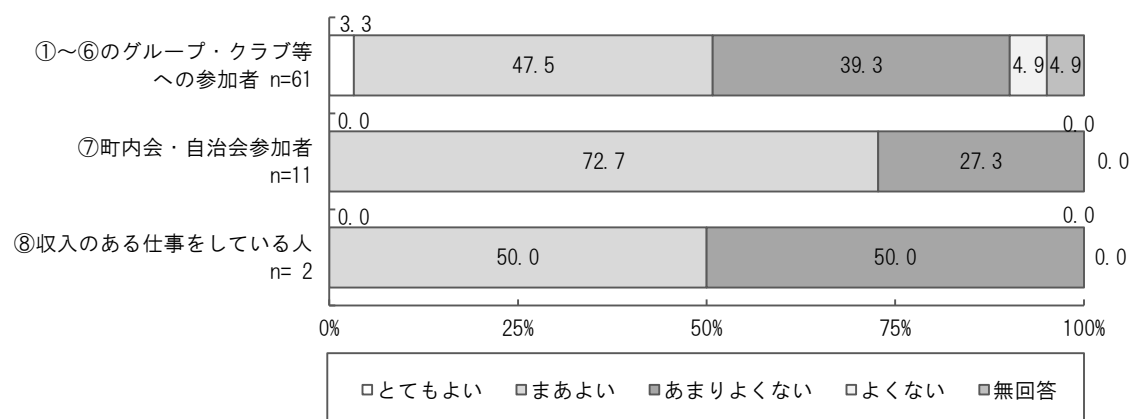
○通いの場等への参加者の主観的健康感をみると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた50.8~72.7%の方が「よい」と回答しています。

○通いの場等への参加者で生きがいのある方は、54.1~54.5%となっています。

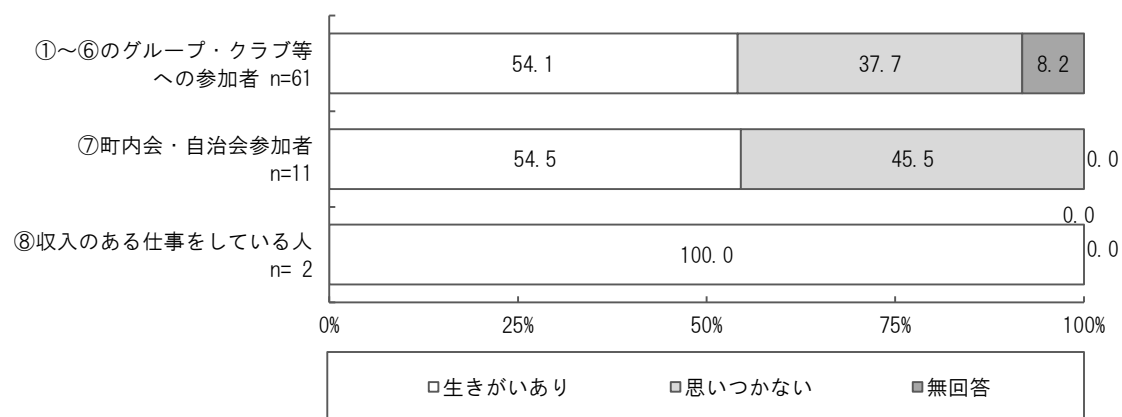
○通いの場等への参加者で趣味のある方は、55.7~63.6%となっています。

(収入のある仕事をしている人は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

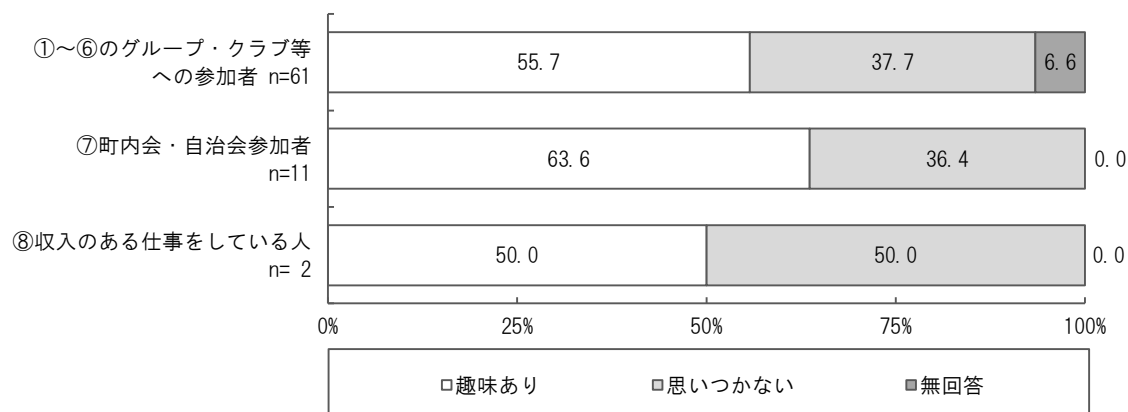
「問5-(1) 通いの場等への参加者」 × 「問7-(1) 主観的健康感」



「問5-(1) 通いの場等への参加者」 × 「問4-(18) 生きがいはあるか」



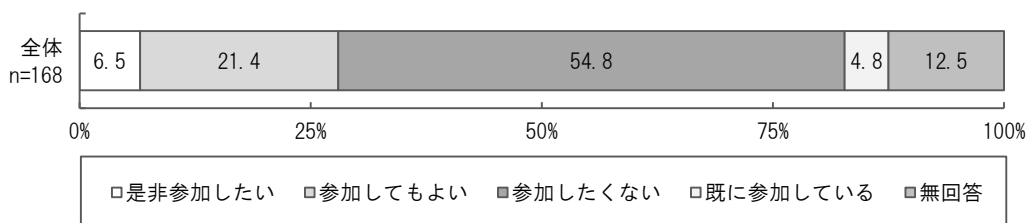
「問5-(1) 通いの場等への参加者」 × 「問4-(17) 趣味はあるか」



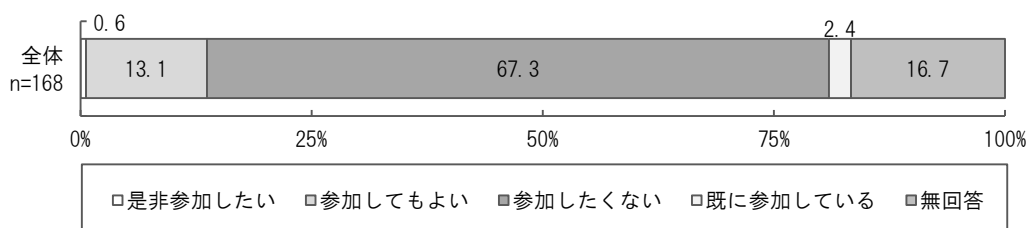
(2) 地域づくりに対する参加意向

- 参加者としてグループ活動等に、「是非参加したい」(6.5%)と「参加してもよい」(21.4%)を合わせた27.9%が参加を希望しています。
- 企画・運営としてグループ活動等に、「是非参加したい」(0.6%)と「参加してもよい」(13.1%)を合わせた13.7%が参加を希望している一方、「参加したくない」は67.3%となっています。
- グループ活動等への参加希望者と既参加者の主観的健康感をみると、参加希望者・既参加者ともに「まあよい」(48.9%・62.5%)の割合が高く、後者が前者を13.6ポイント上回っています。
- グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の主観的健康感では、参加希望者は「あまりよくない」(43.5%)の割合が高くなっています。
(既参加者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

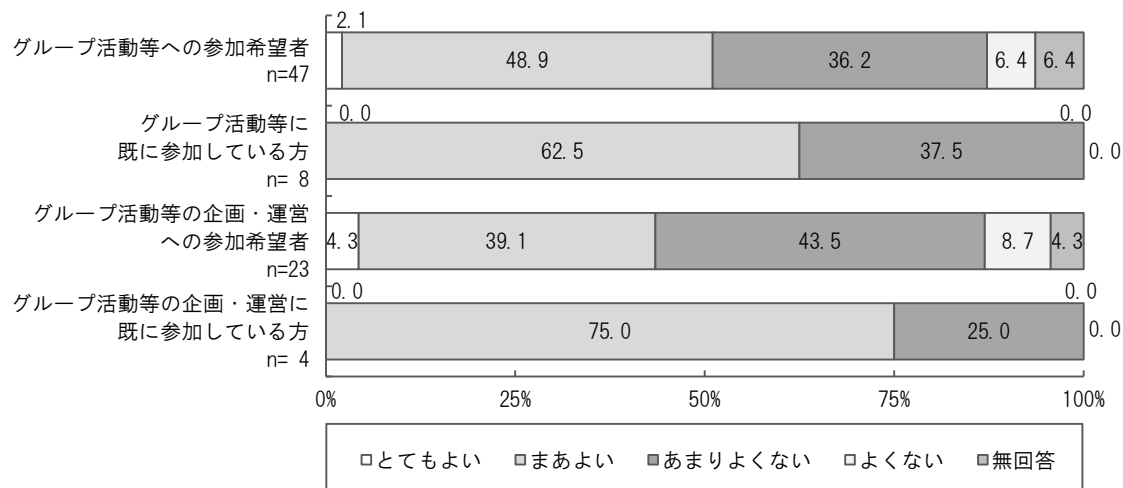
問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問7-(1) 主観的健康感」



○グループ活動等への参加希望者と既参加者の生きがいを見ると、参加希望者・既参加者ともに「生きがいあり」(51.1%・75.0%)の割合が高く、後者が前者を23.9^{ポイント}上回っています。

○グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の生きがいでは、参加希望者は「生きがいあり」(73.9%)の割合が高くなっています。

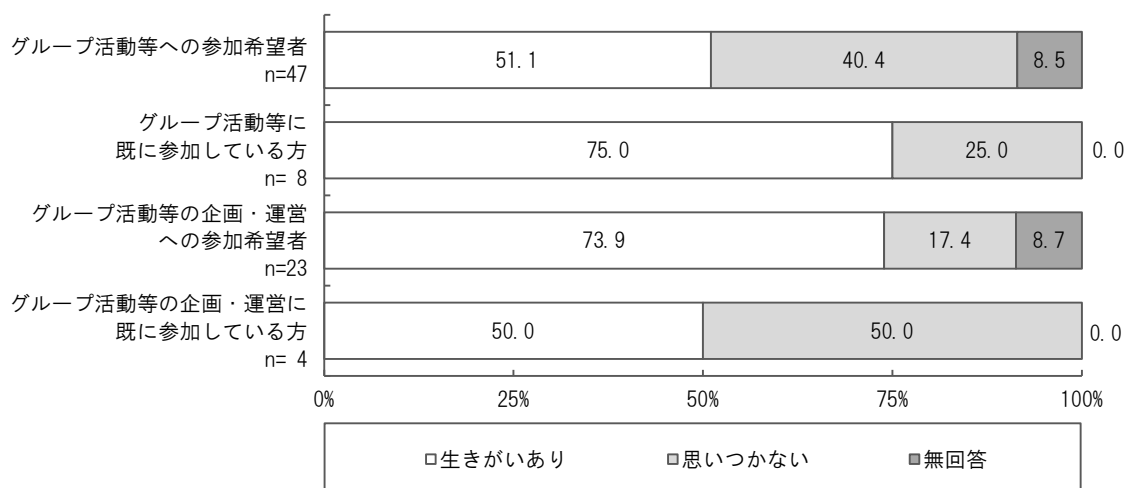
(既参加者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

○グループ活動等への参加希望者と既参加者の趣味を見ると、参加希望者・既参加者ともに「趣味あり」(63.8%・100.0%)の割合が高く、後者が前者を36.2^{ポイント}上回っています。

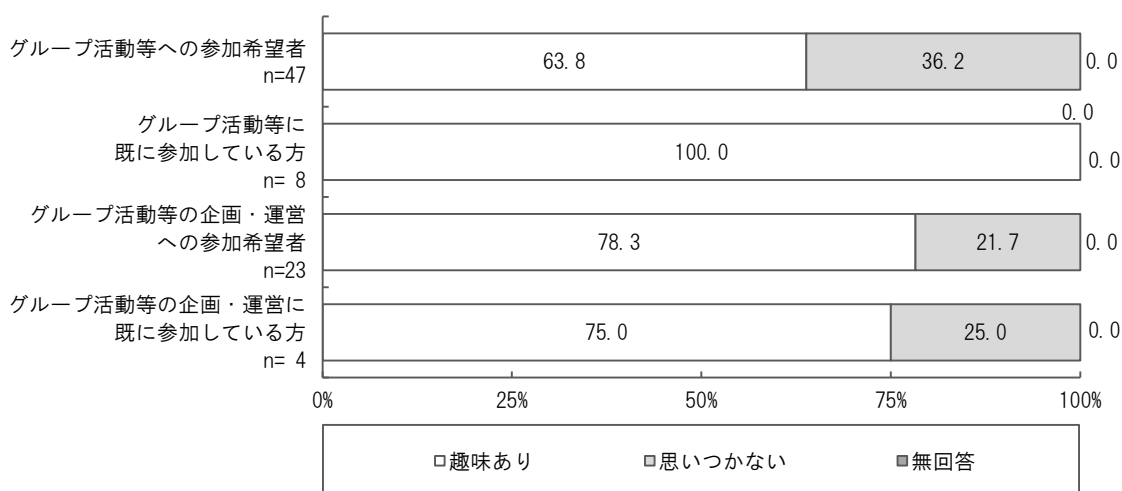
○グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の趣味では、参加希望者は「趣味あり」(78.3%)の割合が高くなっています。

(既参加者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問4-(18) 生きがいはあるか」



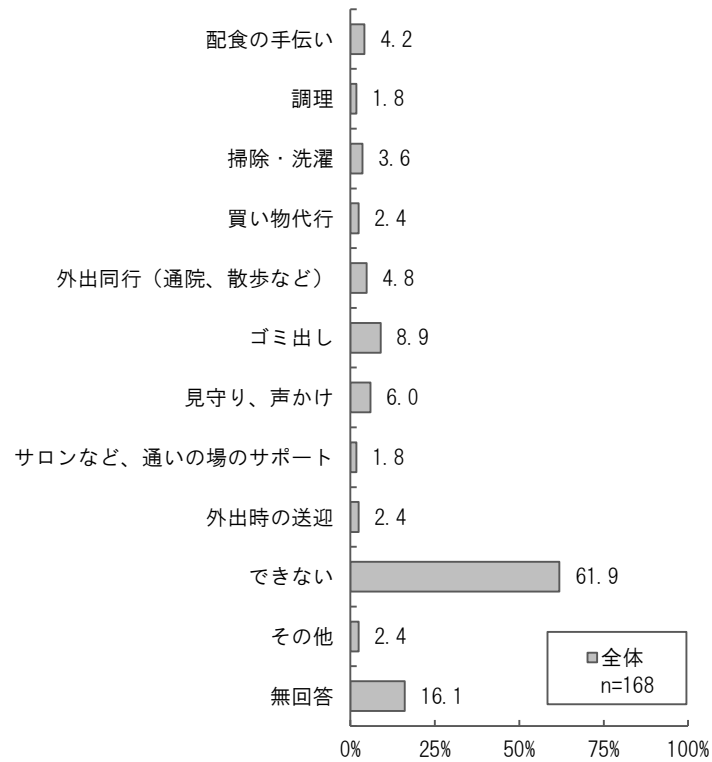
「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問4-(17) 趣味はあるか」



(3) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援

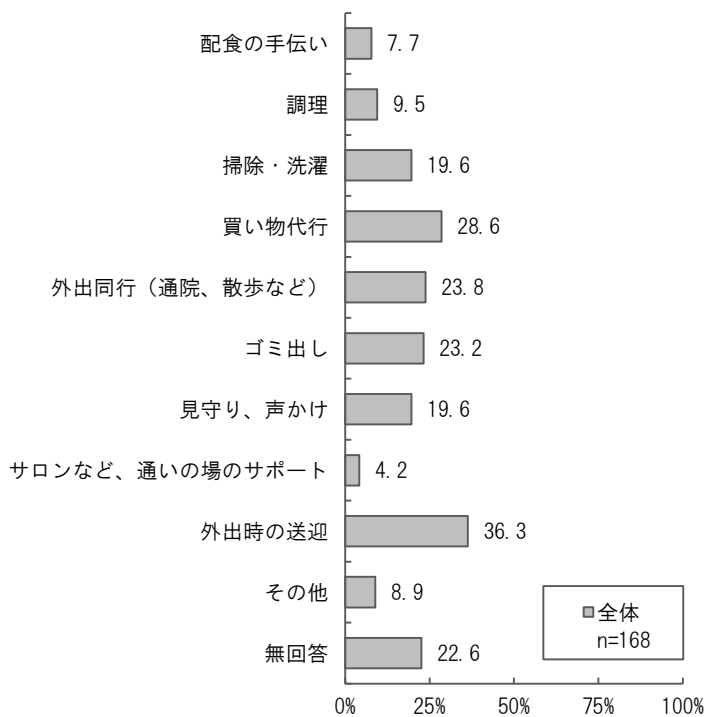
○地域でできる支援をみると、「ゴミ出し」(8.9%)、「見守り・声かけ」(6.0%)、「外出同行(通院、散歩など)」(4.8%)、「配食の手伝い」(4.2%)など、何れも1割未満となっています。一方、「できない」は61.9%となり、最も高くなっています。

問5-(4) 地域でできる支援



○地域で暮らし続けるために必要なサービスや支援では、「外出時の送迎」(36.3%)、「買い物代行」(28.6%)、「外出同行(通院、散歩など)」(23.8%)、「ゴミ出し」(23.2%)、「掃除・洗濯」「見守り、声かけ」(各19.6%)で割合が高くなっています。

問5-(5) 地域で暮らし続けるために必要なサービスや支援

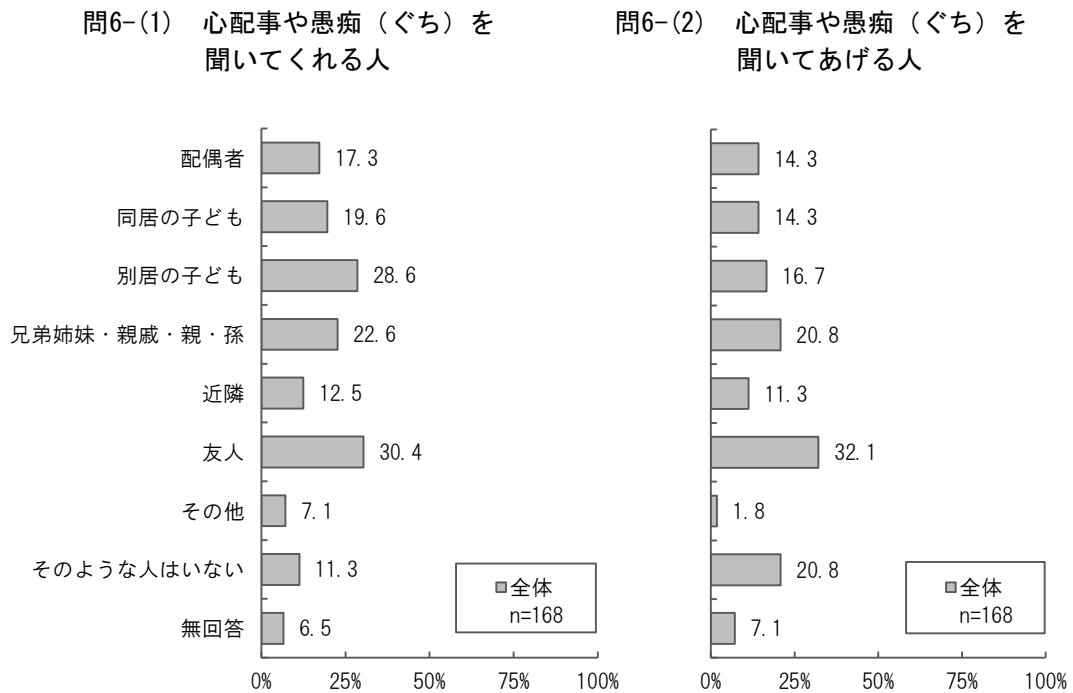


6 たすけあいについて

(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

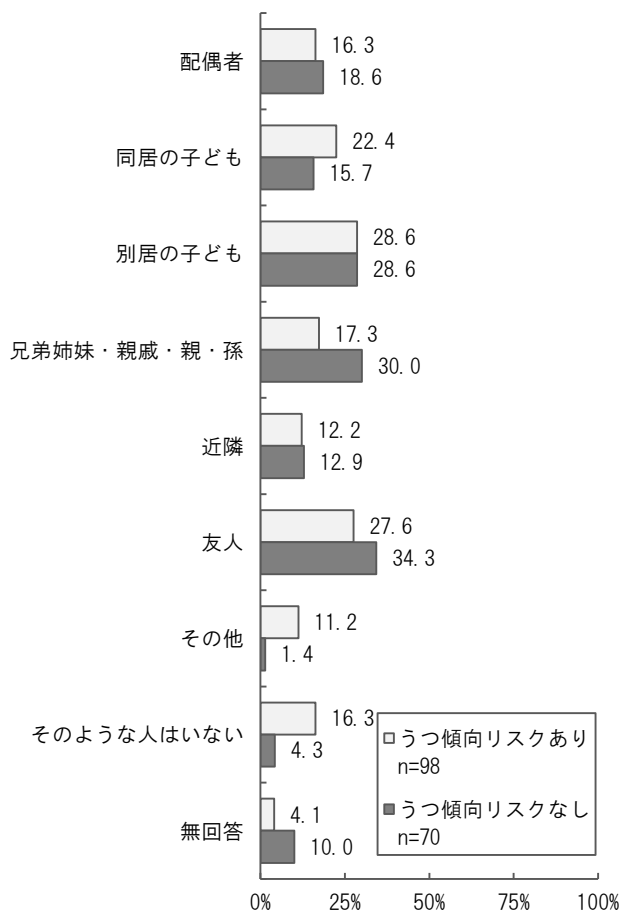
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「友人」（30.4％）が最も高く、次いで「別居の子ども」（28.6％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（22.6％）となっています。一方、「そのような人はいない」は11.3％となっています。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「友人」（32.1％）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（20.8％）、「別居の子ども」（16.7％）となっています。一方、「そのような人はいない」は20.8％となっています。



○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をうつ傾向リスクの有無別にみると、リスクありは「別居の子ども」（28.6%）が最も高く、次いで「友人」（27.6%）、「同居の子ども」（22.4%）、リスクなしでは「友人」（34.3%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（30.0%）となっています。一方、「そのような人はいない」は前者が16.3%、後者が4.3%と前者が12.0ポイント上回っています。

「問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人」×「うつ傾向リスクの有無」

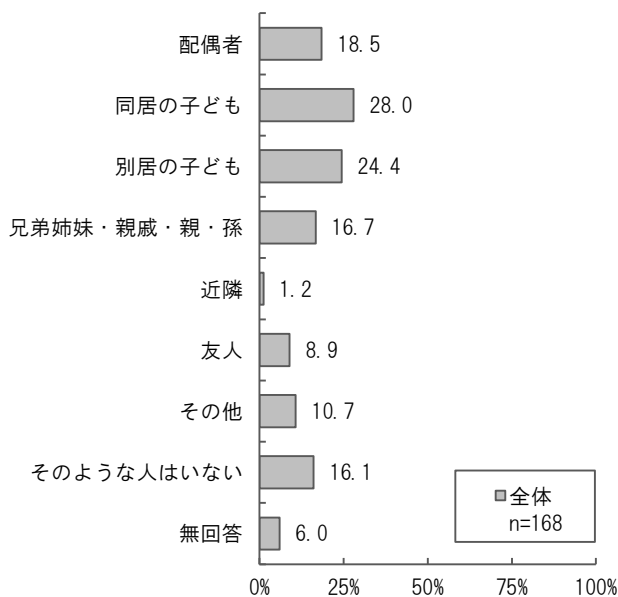


○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「同居の子ども」(28.0%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(24.4%)、「配偶者」(18.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.7%)となっています。

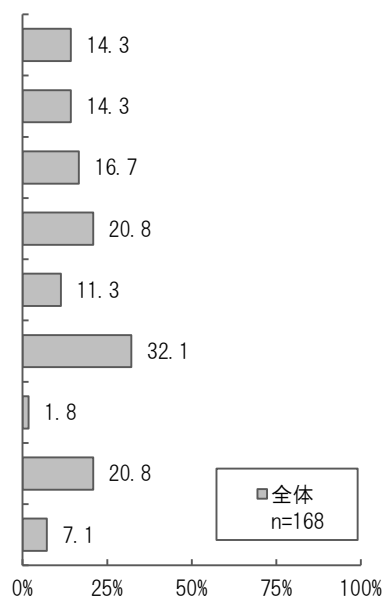
○看病や世話をしてあげる人は、「友人」(32.1%)が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(20.8%)、「別居の子ども」(16.7%)となっていますが、「そのような人はいない」は20.8%となっています。

○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「ケアマネジャー」(42.9%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(32.1%)、「医師・歯科医師・看護師」(23.2%)となっていますが、「そのような人はいない」は20.8%となっています。

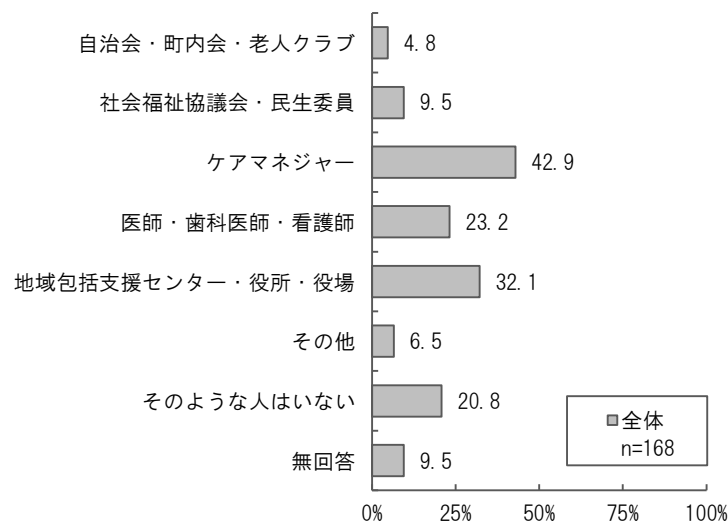
問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、
看病や世話をしてくれる人



問6-(4) 看病や世話をしてあげる人



問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



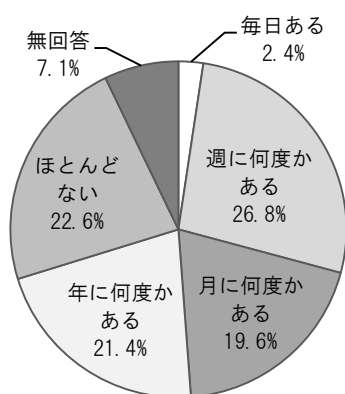
(2) 友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」(26.8%)が最も高く、次いで「年に何度かある」(21.4%)となる一方で、「ほとんどない」は22.6%となっています。

○1か月間に会った友人・知人の人数をみると、「1～2人」(30.4%)が最も高く、次いで「3～5人」(22.6%)となる一方で、「0人(いない)」は21.4%となっています。

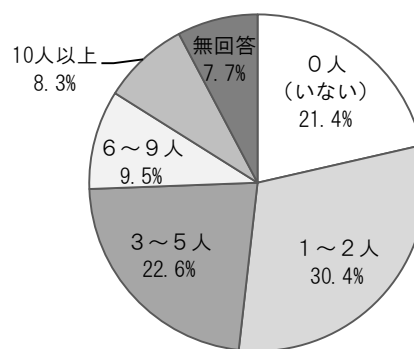
○よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」(42.9%)が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(19.0%)、「仕事での同僚・元同僚」(12.5%)、「学生時代の友人」(5.4%)となっています。

問6-(6) 友人・知人と会う頻度



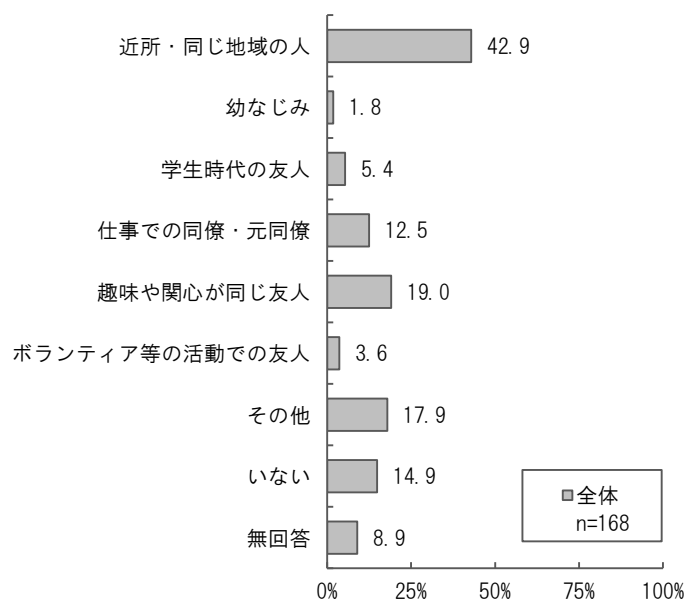
全体 n=168

問6-(7) 何人の友人・知人と会ったか
(最近1か月間)



全体 n=168

問6-(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か



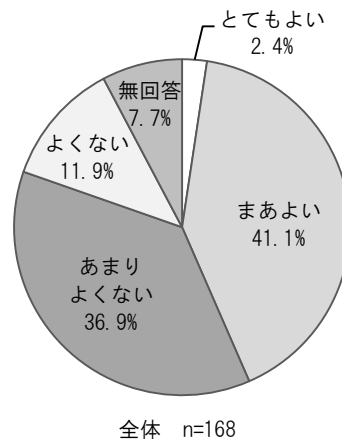
全体
n=168

7 健康について

(1) 健康状態

○現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(41.1%)が最も高く、「とてもよい」(2.4%)を合わせると43.5%が健康と感じています。

問7-(1) 現在の主観的健康感

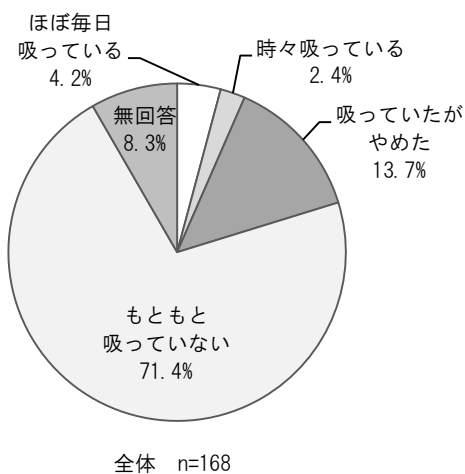


(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

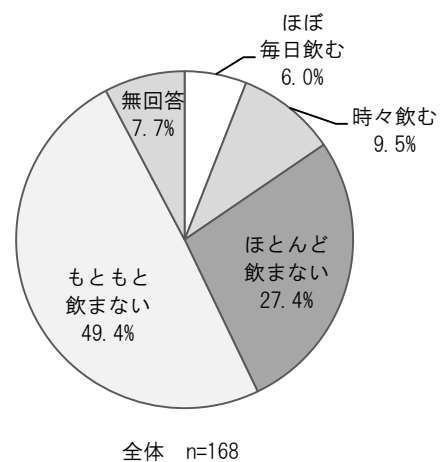
○喫煙の状況をみると、「ほぼ毎日吸っている」(4.2%)と「時々吸っている」(2.4%)を合わせた6.6%が喫煙者となっています。

○飲酒の状況では、「ほぼ毎日飲む」(6.0%)と「時々飲む」(9.5%)を合わせた15.5%が飲酒者となっています。

問7-(5) 喫煙の状況



問7-(7) 飲酒の状況

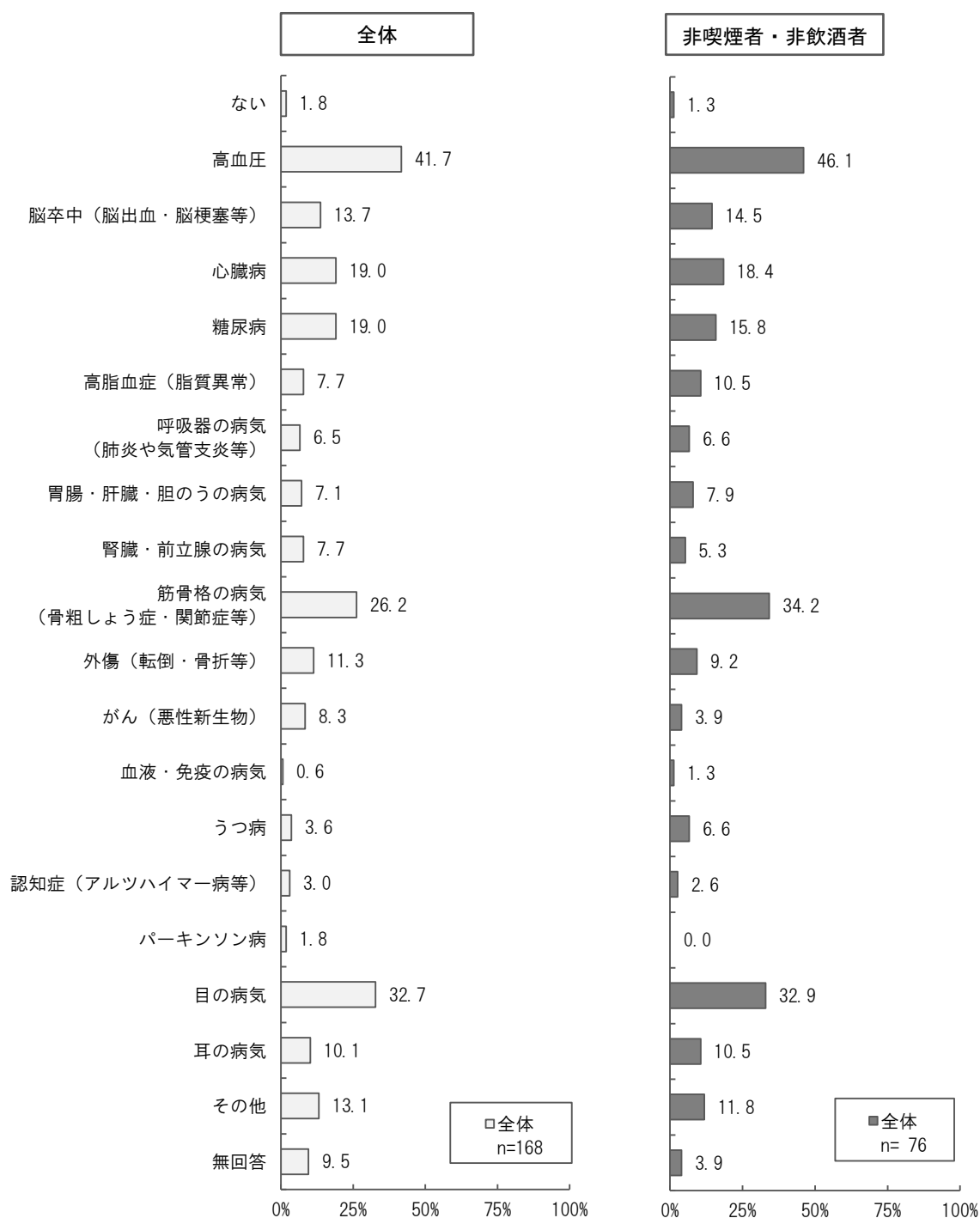


○現在治療中、または後遺症のある病気をみると、全体では「高血圧」(41.7%) が最も高く、次いで「目の病気」(32.7%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(26.2%)、「心臓病」「糖尿病」(各19.0%)となっています。

○非喫煙者・非飲酒者の現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」(46.1%) が最も高く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(34.2%)、「目の病気」(32.9%)、「心臓病」(18.4%)、「糖尿病」(15.8%)となっています。

○また、「ない」と回答した方は、全体では1.8%、非喫煙者・非飲酒者では1.3%となっています。

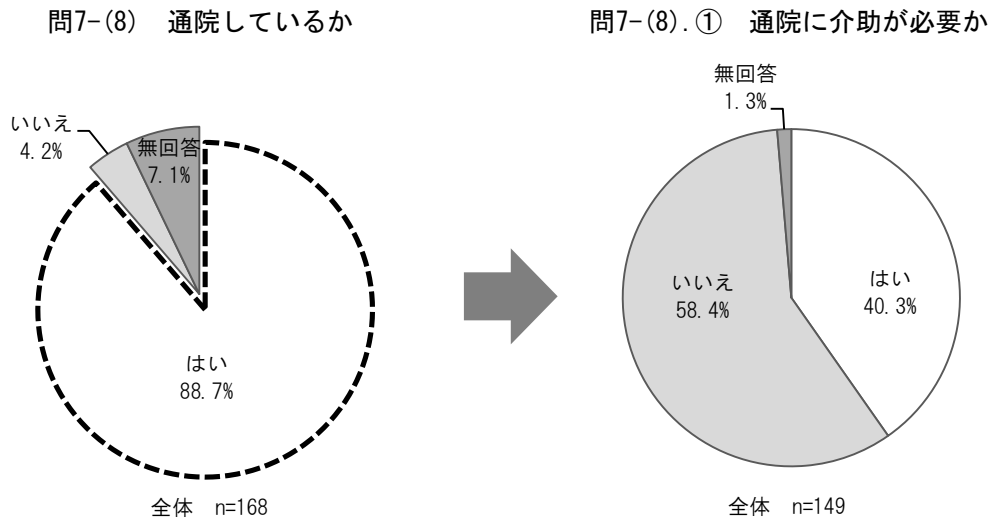
問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気



(3) 通院の状況

○通院している方は88.7%となっています。

○通院している方のうち、通院に介助が必要な方は40.3%となっています。



8 生活状況の変化に伴う暮らしの場について

○介護が必要になるなど、生活状況が変わった際に暮らしたい場所をみると、「要介護になっても自宅で暮らしたい」(31.5%)が最も高く、次いで「施設(特別養護老人ホーム等)」(17.3%)、「有料老人ホーム」(12.5%)となっています。

問8-(1) 介護など、生活状況の変化による暮らしたい場所

